

## 平成22年度 関西大学博物館実習

平成22年度の関西大学博物館実習は、受講者71名で、内訳は表の通りである。平成22年度の博物館実習のカリキュラムは、後掲の「平成22年度関西大学博物館実習日程」にあるように実施した。関西大学では金曜日の4時限～5時限、土曜日の4時限～5時限、年間を通して学内での博物館実習と学外見学実習を行っている。

春学期には、資料の「基礎的な取り扱い」から「梱包」、「調書の取り方」へと段階的に実習し、あわせて月に1度程度日曜日を利用した近畿圏の博物館・美術館施設の見学実習を行ない、博物館における学芸業務全般についての基礎的な知識の習得を行うようにしている。

秋学期には、実習生による「関西大学博物館実習展」の開催へ向けての具体的な作業について実習する。今年度は、特に全体テーマを掲げず、実習生がグループを形成してひとつのテーマを選択、様々な文化遺産を取り上げ、大学、教員、学生と地域の住民、自治体、企業との連携を探る展示5つを企画することとなった。

この「博物館実習展示会」は、習得した学芸業務についての知識と経験、受講生の専門分野や興味を基に、自発的にグループを結成して準備、実施する展示会で、博物館実習の集大成としての行事である。基本テーマに従い、学生のグループが自主的に地域社会、住民の方々と個別テーマ、展示資料の借用交渉と展示方法などの折衝を続け、5つのテーマ設定が行われて、充実した内容での展示会を実施することができた。内容と来館者アンケートの結果を、実習展の報告として収録した。

実習展を終えてからは、保存科学や研究活動についての実習と講義、最終日は、反省会を開催して、平成22年度の博物館実習のカリキュラムを終了した。

平成22年度の博物館実習は、本学教員とともに博物館・美術館や研究機関、行政機関に所属される学芸員、専門担当者が担当した。

### 平成22年度 担当教員

高橋隆博 文学部教授

米田文孝 文学部教授

原田正俊 文学部教授

橋寺知子 環境都市工学部准教授

林 進 前大和文華館

佃 一輝 佃一茶庵

明尾圭造 芦屋市立美術博物館

伊藤健司 元興寺文化財研究所

一瀬和夫 京都橘大学教授

山内紀嗣 天理大学天理参考館

熊 博毅 関西大学博物館

森 隆男 文学部教授

西本昌弘 文学部教授

黒田一充 文学部教授

河合正人 前あやめ池遊園地昆虫館

北川博子 財団法人阪急学園池田文庫

西川卓志 西宮市立郷土資料館

伊藤信明 和歌山県立文書館

文珠省三 大阪歴史博物館

山口卓也 関西大学博物館

# 平成22年度 関西大学「博物館実習」日程

授業時間 1組：金曜日 4・5時限 (14:40~17:50)  
2組：土曜日 4・5時限 (14:40~17:50)

HP22\_4\_6

1組 (金 曜)		2組 (土 曜)	
日	A	日	A B
9/金	担当者全員 第1学舎5号館E.402教室	担当者全員 第1学舎5号館A.501教室	
16/金	高橋(隆) 第1学舎5号館E.402教室	高橋(隆) 博物館実習室	文化財保護法の解説
23/金	山内 博物館実習室	文殊 博物館実習室	考古資料の取り扱い
30/金	林 博物館実習室	伊藤(信) 古文書実習室	歴史資料の取り扱い
7/金	明尾 博物館実習室	北川 博物館実習室	美術資料の取り扱い
14/金	黒田 第1学舎5号館E.402教室	黒田 博物館実習室	民俗資料の取り扱いの基礎と方法
	西本 第1学舎5号館E.402教室	原田 博物館実習室	文書資料の取り扱いの基礎と方法
	西川 博物館実習室	文殊 博物館実習室	考古資料の調査の取り方 梱包と借用の仕方
21/金	林 博物館実習室	伊藤(信) 古文書実習室	歴史資料の調査の取り方 梱包と借用の仕方
28/金	林 博物館実習室	伊藤(信) 古文書実習室	歴史資料の調査の取り方 梱包と借用の仕方
30/日	森・鶴谷 大阪城天守閣・大阪歴史博物館	森・鶴谷 大阪城天守閣・大阪歴史博物館	博物館等施設見学
4/金	休講	(大学昇格記念日)	
11/金	明尾 博物館実習室	西川 博物館実習室	美術資料の調査の取り方 梱包と借用の仕方
13/日	明尾・山口 ①藤枝義具工房 他	博物館等施設見学 (選択制 6/13と7/4、8/3実施の見学先のうち少なくとも一つを選択すること、すべてに参加してもよい)	
18/金	林 第1学舎5号館E.402教室	林 博物館実習室	展覧会企画・ポスター作成
	熊 第1学舎5号館E.402教室	熊 博物館実習室	図録編集・出版
25/金	橋寺 第1学舎5号館E.402教室	橋寺 博物館実習室	文化遺産としての建造物
27/日	橋寺・石立 大阪くらしの今昔館・大阪市内まら歩き	橋寺 博物館実習室	博物館等施設見学 (大阪府下 建造物・景観見学)

		1 組 ( 金 曜 )		2 組 ( 土 曜 )	
日	A	B	日	A	B
2/ 金	米田・森 第1学舎5号館 E402教室	夏季休暇中の日程表配布及び実習展の説明・班編成	3/ 土	米田・森 博物館実習室	夏季休暇中の日程表配布及び実習展の説明・班編成
4/ 日	森・石立 ②京都市内美術館	博物館等施設見学 (選択制 6/13と7/4、8/3実施の見学先のうち少なくとも一つを選択すること、すべて参加してもよい)	10/ 土	河合 博物館実習室	自然史資料の保存と整理
7	河合・山口 第1学舎5号館 E402教室	自然史資料の保存と整理	17/ 土	休講	
11/ 日	河合・山口 自然系博物館	博物館等施設見学 (大阪府下 自然系博物館)			
2/ 月	森・熊 琵琶湖博物館	博物館等施設見学 (近郊)			
3/ 火	黒田・齋谷 ③元興寺文化財研究所・奈良市写真美術館	博物館等施設見学 (選択制 6/13と7/4、8/3実施の見学先のうち少なくとも一つを選択すること、すべて参加してもよい)	25/ 土	熊 備文館増築棟1階文化遺産実習・展示室	資料写真撮影の目的と方法
4/ 水・ 5/ 木	夏季休業中	高橋・米田・黒田・明尾・西川・河合 なんでも相談会 (希望者のみ)	2/ 土	佃 博物館実習室	お茶と文化
16/ 水～ 18/ 土	米田・森・山口・齋谷 見学場所は7/2、7/3に発表	博物館等施設見学 (東京方面2泊3日)	9/ 土	佃 誠之館3号館和室 (茶室)	資料取り扱い・鑑賞 (茶室)
24/ 金	熊 備文館増築棟1階文化遺産実習・展示室	資料写真撮影の目的と方法	16/ 土	黒田・山口 博物館実習室	博物館の普及広報と情報化、インターネットアプリケーション
1/ 金	佃 第1学舎5号館 E402教室	お茶と文化	23/ 土	原田・山口 博物館展示室	展示指導及び実習展準備作業 (実習展での資料借用と梱包)
8/ 金	佃 誠之館3号館和室 (茶室)	資料取り扱い・鑑賞 (茶室)	30/ 土	森・林 博物館展示室	展示指導及び実習展準備作業 (学生による自主作業)
15/ 金	黒田・山口 第1学舎5号館 E402教室	博物館の普及広報と情報化、インターネットアプリケーション	6/ 土	学園祭のため休講	(実習展のための自主作業は可能)
22/ 金	西川・明尾 博物館展示室	展示指導及び実習展準備作業 (実習展での資料借用と梱包)	13/ 土	森・林 博物館展示室	展示指導及び実習展準備作業 (実習展での展示作業)
29/ 金	黒田・林 博物館展示室	展示指導及び実習展準備作業 (学生による自主作業)	14/ 日～ 19/ 金	実習展 (11/14～19)	講評 (11/19) ・ 撤去 (11/19・20)
5/ 金	学園祭のため休講	(実習展のための自主作業は可能)	26/ 金	一瀬 博物館展示室	展示評価
12/ 金	米田・林 博物館展示室	展示指導及び実習展準備作業 (実習展での展示作業)	27/ 土	博物館実習室	展示評価
28/ 日	一瀬・齋谷 大阪城守閣・大阪城公園	博物館等施設見学			

1組 (金 曜)		2組 (土 曜)	
日	A	日	A
3/金	伊藤(健) 第1学舎5号館E402教室	伊藤(健) 博物館実習室	金属・木器資料の保存処理
10/金	4限 山内 第1学舎5号館E402教室	4限 赤 博物館実習室	資料研究と発表①
	5限 原田 第1学舎5号館E402教室	5限 原田 博物館実習室	資料研究と発表②
	17/金	明尾 第1学舎5号館E402教室	米田 博物館実習室
		25/土	休講
7/金	担当者全員 第1学舎5号館E402教室	担当者全員 博物館実習室	1年間の反省・学芸員の課題
14/金	休講		
15/土 締切	1組・2組全員 [提出場所] 博物館事務室	提出期間 1/7 ~ 1/15 提出時間 10:00 ~ 16:00 (12:30~13:30は除く) [レポート論題]「自由題」 A4判 横書き 4000字 (原稿用紙・ワープロ作成いずれも可)	
14/月	1組・2組全員 [受取場所] 博物館事務室	受取時間 10:00 ~ 16:00 (12:30~13:30は除く)	

[実習上の諸注意]

- (1) 実習に関する全ての連絡は、インフォメーションシステムの「講義連絡」または「お知らせ」にて行うので、実習のある日の前日には、必ずインフォメーションシステムをチェックすること。  
また、休日に実施する実習・見学等の詳細については、その都度授業中に指示することもあるので注意すること。  
[インフォメーションシステムは、関西大学ホームページ(<http://www.kansai-u.ac.jp>)のトップページ左下にある「インフォメーションシステム」をクリックして閲覧ください。]
- (2) 見学は時間的に制約される場合が多いので、時間厳守で集合のこと。
- (3) 館内においては、館内を守り、学生としての品位と自覚が必要。また、万年筆・ボールペン等は使用しないこと。鉛筆のみ可能。
- (4) 実習簿は所定の日に必ず提出すること。その際、配付した資料・見学実習等を集めた資料等も実習簿にファイルしておくこと。  
実習簿は採点の参考資料とした後、各自へ返却するので必ず受け取りに来ること。

## 平成22年度博物館実習受講者数表

### 全体

		3年次	4年次	合計
学部	法学部	0	0	0
	文学部	49	4	53
	経済学部	0	1	1
	商学部	0	0	0
	社会学部	1	2	3
	政策創造学部	3	2	5
	外国語学部	0	0	0
	総合情報	0	0	0
	理工系学部	1	0	1
	小計	54	9	63
大学院				7
科目等履修生				1
総合計				71

院・学部・年次別	3年次	4年次	大学院	科目等	合計
1組（金曜日）	47	0	1	0	48
2組（土曜日）	7	9	6	1	23
合計	54	9	7	1	71

男女比	男子	女子	合計
1組（金曜日）	9	39	48
2組（土曜日）	7	16	23



22年度博物館実習風景

11月14日(日)～11月19日(金)  
 関西大学博物館第2展示室

開館時間：10時～16時

入館料：無料



平成22年度  
 関西大学博物館実習展



関西大学博物館 関西大学千里山キャンパス 西金千里線関大駅下車 徒歩10分  
 〒564-8680 大阪府枚田市山手町 3-3-35 TEL：06-6366-1171 E-mail：hakubutsukan@mi.kandai.jp

平成22年度

# 関西大学博物館実習展

日時：11月14日(日)～11月19日(金)10時～16時

場所：関西大学博物館第2展示室(簡文館内)



## あさこし ～なにわ菓子物語～

今も昔も「なにわっ子」たちに愛されている「あさこし」。細かく砕いた米を水飴などで固めたその菓子の起源は、遠く古代にまでさかのぼるとされています。菅原道真や豊臣秀吉をも魅了した独特な味わいは、江戸時代には「天下の台所」の人々の間で人気を得て一躍大阪の銘菓へと発展しました。しかし、初浮きかき菓子であふれる昨今ではあさこし自体を知らない若者も増えています。そこで、この展示では大阪の文化・あさこしについて多くの方々に知っていただくとともに、その歴史を通して大阪庶民の食や暮らしに注目したいと思います。



## 化粧から化SHOWへ

女性たちはいつの世も「化粧」と共に歩いてきました。高度経済成長期以前の女性たちは、皆、同じような化粧をし、同じような美しさを求めていました。しかし現代では、女性たちは自立する中で個性を持ち、自分をよく見せるため、化けるように様々なメイクをするようになってきました。私たちは「昔の化粧」と「今の化粧」を比較し、その違いや、現代の化粧の多様化に焦点を当てて展示を行います。アンケートによって現代人の生の声も取り入れており、女性や化粧のありかたを考えるきっかけにさせていただきたいです。



## たばこ再考

皆さんは「たばこ」についてどのようなイメージを持つでしょうか。先日も大幅な値上げが行われ、禁煙の勧奨や健康被害を訴える広告やCMも連日のように目にするようになりました。しかし、「たばこ」は本来長い歴史と文化を持っています。展示では、近現代を中心に文化を見つめなおし、「たばこ」が語られている現状やマナーアップへの取り組みを確認することで、今後の「たばこの楽しみ方」を個人が考える材料となる展示を行いたいと思います。



## 上方浮世絵 ～ Osaka Prints ～

「Osaka Prints」として海外では知られている上方浮世絵。皆さんはご存知でしょうか。浮世絵とは、江戸時代を代表する風俗画の様式です。大衆生産のできる木版刷り技法を用いたため、江戸で庶民を中心に広く普及しました。上方にも、約30年の時を経て伝わり、独自の発展を遂げました。この度の展示では、役者絵に焦点を絞りました。役者を盛飾されたものとみなすのではなく、ありのままの姿を描いている上方浮世絵の良さを引き出したいと思います。



## ひなまつり～変わらぬ願い～

日本の伝統文化であるひなまつり。それは我が子の健やかな成長・幸せな将来を願って、各時代を通し行われてきました。しかし、近年家族を取り巻く環境が変わり、一家庭で伝統行事を行わない家庭が増えました。それに伴いひなまつり自体も行われなくなり、ひなまつりの持つ大切な意味が人々の意識から薄れかけています。そこで、ひなまつりは古代から現代に至るまで様々な変化を遂げながらも、親から子への変わらない願いが込められているという事を伝えたいと思いました。今回、私達の展示を通してこの願いに触れてみてください。

## 関西大学博物館

関西大学千里山キャンパス 簡文館内  
〒594-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL：06-6368-1171  
<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/index.html>  
E-mail：hokubutsukan@mi.kandai.jp

■アクセス 関西大学千里山キャンパス西側千里塚駅「関大前」駅下車徒歩10分



関西大学博物館実習展アンケート

本日は関西大学実習展にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。今後の実習展の参考にさせていただきますので、アンケートにご協力をお願いします。なお、頂いたご回答はアンケート集計の目的以外には使用いたしませんので、率直なご意見、ご感想をお聞かせください。

【お客様について】

1、性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
2、年齢	<input type="checkbox"/> 10代未満 <input type="checkbox"/> 10代 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70代 <input type="checkbox"/> 80代以上
3、所属	<input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 本学学生・院生 ( )学部 <input type="checkbox"/> 本学職員・関係者 <input type="checkbox"/> 本学以外の学生 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> その他 ( )
4、住所	<input type="checkbox"/> 大阪府……(吹田市 <input type="checkbox"/> それ以外の市町村) <input type="checkbox"/> 京都府 <input type="checkbox"/> 兵庫県 <input type="checkbox"/> 奈良県 <input type="checkbox"/> その他 ( )
5、今回の関西大学博物館実習展を何で知りになりましたか	<input type="checkbox"/> 授業 <input type="checkbox"/> ポスター <input type="checkbox"/> 関西大学ホームページ <input type="checkbox"/> 友人・知人 <input type="checkbox"/> 本学教職員・関係者 <input type="checkbox"/> その他 ( )
6、これまでに関西大学博物館実習展にお越しになりましたことはありますか	<input type="checkbox"/> 初めて <input type="checkbox"/> 2回~4回 <input type="checkbox"/> 5回以上 <input type="checkbox"/> 毎年
7、普段博物館、美術館へどのくらいの頻度で足を運ばれますか	<input type="checkbox"/> 週に1回程度 <input type="checkbox"/> 月に1回程度 <input type="checkbox"/> 半年に1回程度 <input type="checkbox"/> 年に1回程度 <input type="checkbox"/> その他 ( )

【展示について】

とても良かった…5・ 良かった…4・ 普通…3・ あまり良くなかった…2・ 良くなかった…1

【栗おこし ～なにわ菓子物語～】の展示をご覧になって

- 1、展示の内容について ( 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 )
- 2、展示の見やすさについて ( 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 )
- 3、展示の解説について ( 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 )
- 4、展示の中で印象に残ったものはありますか。  
( )
- 5、展示の仕方では悪かった点はありますか。  
( )

【化粧から化SHOWへ】の展示をご覧になって

- 1、展示の内容について ( 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 )
- 2、展示の見やすさについて ( 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 )
- 3、展示の解説について ( 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 )
- 4、これからの化粧に対してのイメージは変わりましたが。  
( )

《 裏面に続きます 》

5、展示をご覧になって特に印象に残った作品は何ですか。  
( )

【たばこ再考】の展示をご覧になって

- 1、展示の内容について ( 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 )
- 2、展示の見やすさについて ( 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 )
- 3、展示の解説について ( 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 )
- 4、たばこに対する考えに変化は見られましたか。  
はい いいえ
- 5、それはどのように変化しましたか。(はいと答えられた方は、たばこについてどのようにお考えですか。)

【上方浮世絵 ～Osaka Prints～】の展示をご覧になって

- 1、展示の内容について ( 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 )
- 2、展示の見やすさについて ( 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 )
- 3、展示の解説について ( 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 )
- 4、上方浮世絵をご存知でしたか。  
はい いいえ
- 5、展示をご覧になって上方浮世絵にどのような印象を受けましたか。  
( )

【ひなまつり ～変わらぬ願い～】の展示をご覧になって

- 1、展示の内容について ( 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 )
- 2、展示の見やすさについて ( 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 )
- 3、展示の解説について ( 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 )
- 4、展示をご覧になって雛人形に対する心境の変化はありましたか。  
はい いいえ (「はい」と答えられた方は自由記述をお願いします)
- 5、展示をご覧になって特に印象に残った作品は何ですか。  
( )

【全体の展示をご覧になって】

- ① 展示会全体の雰囲気などはいかがでしたか。  
( )
- ② 今回の展示についてご意見・ご感想などあればお書きください。  
( )

以上でアンケートは終了となります。  
ご協力ありがとうございました。



タイガ

ロン

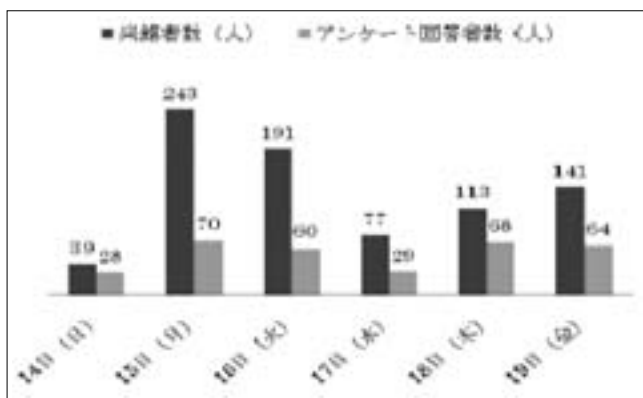
© 2010 2010



# 平成21年度 関西大学博物館実習集計報告書

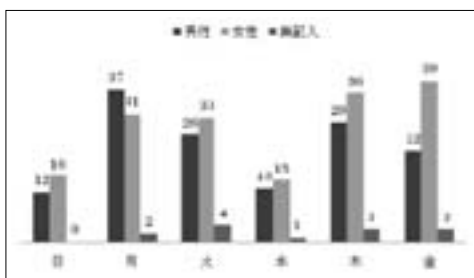
## 【見学者について】

### ○来館者数

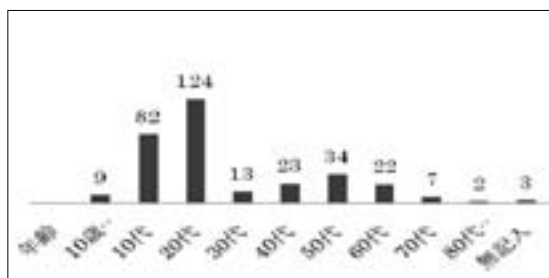


11月14日から19日の全体  
来館者…804名  
アンケート回答者…319名  
回収率…39.7%

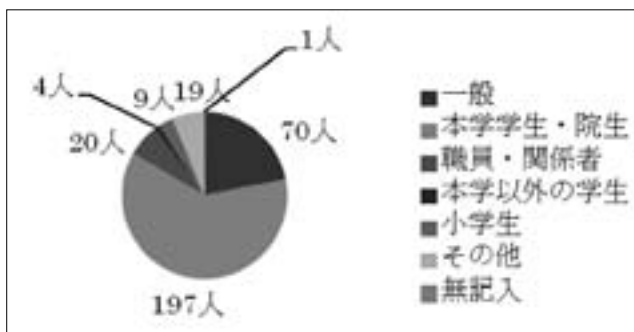
### 1. 性別



### 2. 年齢



### 3. 所属

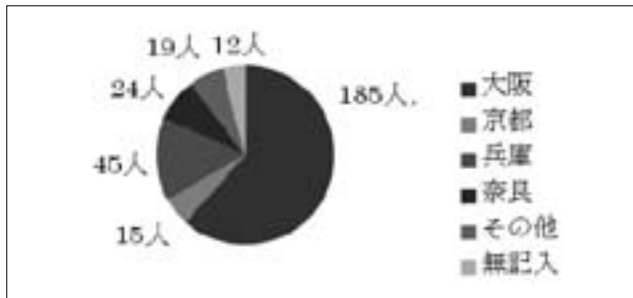


※本学学生・院生197人のうち、59人は文学部



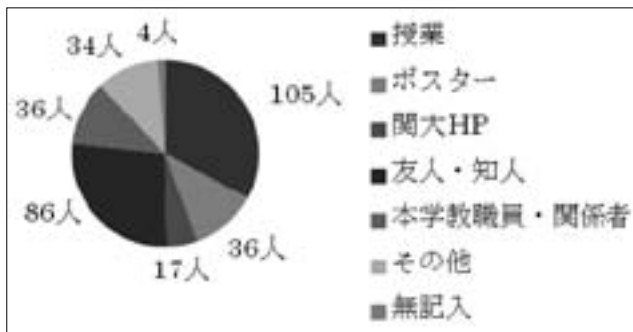
実習展風景

4. 住所

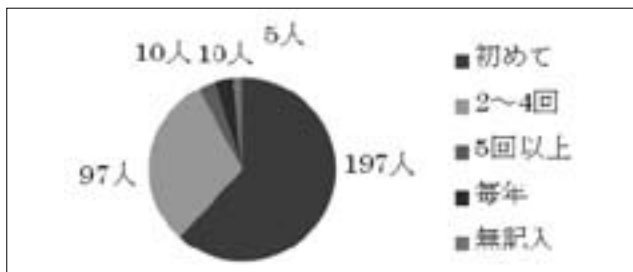


※大阪府在住の185人のうち、  
76人は吹田市

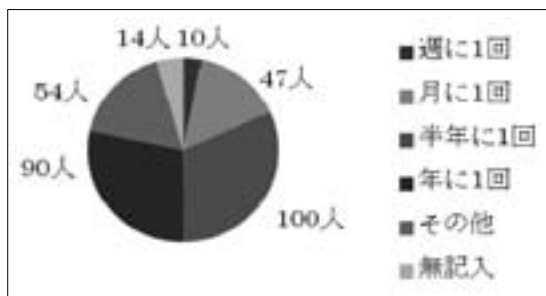
5. 今回の関西大学博物館実習展を何でお知りになりましたか。



6. これまで関西大学博物館実習展にお越しになられたことはありますか。



7. 普段博物館、美術館へどのくらいの頻度で足を運ばれますか。



展示展風景

【展示について】

○ 共通質問項目

1、展示の内容について 2、展示の見やすさについて 3、展示の解説について

〈評価〉

5…とても良かった、4…良かった、3…普通、2…あまり良くなかった、1…良くなかった

(※平均は、小数点第3位以下切り捨て)

[票おこし]

質問 \ 点数	5	4	3	2	1	平均	無記入
1. 内容	141人	177人	51人	1人	0人	4.23	14人
2. 見やすさ	171人	149人	54人	1人	0人	4.30	15人
3. 解説	116人	151人	91人	5人	0人	4.04	11人

[化粧]

質問 \ 点数	5	4	3	2	1	平均	無記入
1. 内容	163人	145人	55人	2人	0人	4.28	23人
2. 見やすさ	139人	133人	55人	5人	0人	4.22	34人
3. 解説	141人	127人	52人	7人	0人	4.22	28人

[たばこ]

質問 \ 点数	5	4	3	2	1	平均	無記入
1. 内容	124人	150人	57人	3人	0人	4.18	49人
2. 見やすさ	126人	123人	54人	4人	1人	4.19	49人
3. 解説	110人	136人	71人	9人	0人	4.08	54人

[浮世絵]

質問 \ 点数	5	4	3	2	1	平均	無記入
1. 内容	141人	146人	40人	0人	0人	4.30	53人
2. 見やすさ	130人	150人	47人	3人	0人	4.23	53人
3. 解説	116人	139人	78人	5人	0人	4.08	56人

[ひなまつり]

質問 \ 点数	5	4	3	2	1	平均	無記入
1. 内容	141人	141人	43人	0人	0人	4.30	57人
2. 見やすさ	143人	130人	50人	3人	0人	4.26	57人
3. 解説	126人	129人	62人	6人	0人	4.16	58人



展示展風景

○班ごとの自由質問項目

[粟おこし]

4. 展示の中で印象に残ったものはありますか。(自由記述)

- 粟おこし、粟おこしの試食
- 粟おこしクイズ
- 現在の種類の多さ
- 粟おこしが米から作られていること。
- 粟おこしを初めて知った。
- パッケージに大阪の文化がよく表れている。
- 万博仕様の岩おこし。阪神タイガース手焼きおこし。
- 身近なお菓子なのに歴史的には何も知らなかったなので、よくわかった。
- 戦時中の資料について（照明も気を配って）多数展示していた点。
- 学生がこれほど熱心にうまくやったことに感心した。
- 包み紙の種類
- 菓子用切符
- 製造過程の図
- 残飯を利用したこと。
- 大阪名物であることを知らなかった。
- 粟おこしが現代風になっていること。
- 商人買物獨案内
- 漫画観光地図
- 大平箱
- 企業PRがあったこと。



粟おこし

5. 展示の仕方では悪かった点はありませんか。(自由記述)

- 資料の解説、説明が足りなすぎる。キャプションの説明が足りない。
- おしゃれな展示だけではなく、パネルの見え方も大切にしてほしい。
- 子供向けクイズが置き方に脈絡がなく、そもそも子供向けとわかりづらい。
- 包み紙の時代背景・年代がわからない。包み紙のデザインや特徴の解説が欲しい。
- パネルの梅の意図が不明。
- タイガースはいらない。
- 全体を明るくしてほしい。
- レプリカが多い。
- 展示がこみあっている。
- 包み紙など、所属先が不明。
- 難しい漢字への読み仮名がない。
- 順路がわかりにくい。
- 企業展示の色合いが強い。
- キャプションがずれていた。
- 日立ミシンおこしがよくわからない。
- 文献の解説が少ない。
- 一部、クイズの答えがない。
- 良くも悪くも教科書レベル。
- 包み紙が少しカールしていた。
- 展示場所がせまい。

- 資料が見にくい（平面であれば、傾けてほしい）。

## [化粧]

4. 展示を見て、これからの化粧への見かたの変化はありましたか。（自由記述）

- とても変わった。
- 明治から昭和の移り変わりを見てイメージが変わった。
- 昔と比べると今は自由だと思った。
- ケバいだけでなく化粧はその時代の人々の内面を投影していると強く実感した。
- 男性と女性の見る点が違うのでびっくりした。
- 女子の本気を見た。
- 化粧の仕方ひとつであんなに変わると思わなかった。
- もっと自分の良さが出る化粧をしたいと思った。
- 男性も化粧をする時代がくる！
- 男性も化 show をすべきだと思った。
- 化粧はさらに進化すると思う。
- 個性を表示する手段というイメージを持てた。
- いろいろな化粧が生まれると思った。
- あまり変わらなかった。
- 化粧自体に興味がないので分からない。
- あまり興味がなかったが、これからは注意して見ていこうと思う。
- 昔も今も化粧は楽しむものだと思うのでイメージは変わらない。
- これからも好きな化粧をしていこうと思った。



化粧

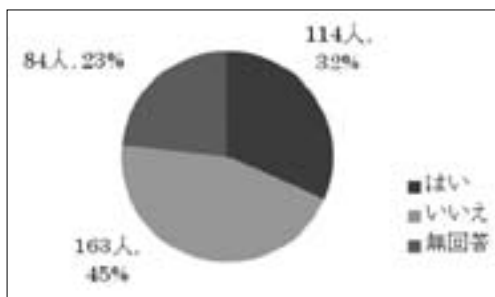
5. 印象に残った作品はありますか。（自由記述）

- 化粧に関するアンケート結果がおもしろかった。
- 未来の化粧
  - 使用されていた化粧品
- 昭和の化粧品がおいてあるコーナー
  - ポスターがきれいでした。

- 現代の化粧品のコラージュ
- 好みのメイクをはかる投票
- 実習生が積極的に話しかけてきたこと。
- 全部！
- 黒いガラスのビン

## [たばこ]

4. たばこに対する考えに変化は見られましたか？



5. それはどのように変化しましたか。いいえと答えられた方は、たばこについてどのようなお考えですか。(自由記述)

### ○「はい」と答えた人

- 昔はファッション的な要素があったことを初めて知った。
- 時代によってたばこは肯定的であったり、否定的であったりする。
- 昭和20年には男性の喫煙率が90%もあったことに驚いた。
- 昔は必要なアイテムだったのが意外でした。
- 昔のたばこはカッコいいと感じた。
- たばこの歴史的・文化的側面が分かった。
- 昔は生活・社会の一部としてたばこが機能していたと気づいた。
- ポスターに女性もいたので驚きました。
- 嗜好品というイメージが強くなった。



たばこ

○「いいえ」答えた人（たばこに対する考え）

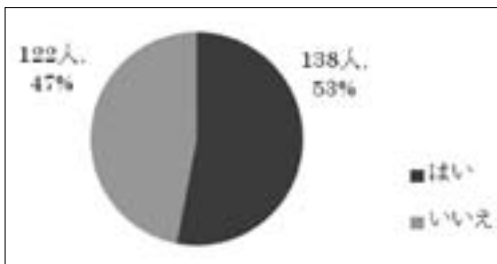
- たばこは身体に害を与えるものである。
- たばこは百害あって一利なし。
- 昔はぜいたく品であったが、現在は健康を害するマイナス面ばかり押し出されている。
- 喫煙者はマナーを守って欲しい。                      • 今後、分煙が進んでいくと思う。
- 昔のようにファッションとして喫煙してはいけないと感じた。
- たばこを吸っている人はカッコいいと思う。
- 喫煙者は禁煙者以上に税金を納めていることに感謝するべきである。
- たばこは人それぞれの好み、個人の自由である。
- 現在が禁煙にこだわる理由が分からない。
- たばこを吸わないので分からない。関心がない。

○その他、意見

- 展示のコンセプトが分からない。                      • 「再考」の意味が分かりにくい。
- 展示が全体的に平坦である。                      • たばこの変遷は年表にした方が良い。
- 昔のたばこを並べただけというふうにしが見えなかった。口頭での説明が欲しかった。
- パネルの切り方だが、両端の文字が見にくかった。もう少し余白があった方が良い。

[上方浮世絵]

4、上方浮世絵を知っていましたか。



5、上方浮世絵にどのような印象を持ちましたか。

- ものすごく細かく綺麗、鮮やか、迫力がある。
- 「写実的で粘っこい、もっちゃりとした」は正にその通り。
- 上方と江戸で浮世絵に違いがあるのがおもしろい。
- 江戸と上方の違いが具体的に何か知りたい。
- 知的な土地柄によって物語性のある版本の挿絵が発達したのがおもしろい。
- ちょっと絵が怖い。
- 今も昔も有名な人を絵（写真）にしている。
- 線が綺麗。
- より多くの人に知ってほしい。



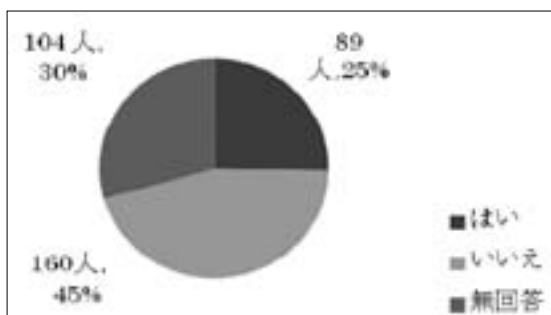
- 役者絵が多いことを知った。
- 合理的で大阪らしい。
- なぜ、江戸浮世絵ほど知られていないのか知りたい。
- 合羽摺りの淡い感じが好きになった。
- 現在と同じで江戸が注目され日の目を見ることが出来なかったというマイナーなイメージだがその力量の素晴らしさは伝わる。
- (全体的に?) わかりにくかった。



上方浮世絵

### [ひなまつり]

4、展示を見て、心境の変化はありましたか。



- 様々な形式、多様性があることを初めて知り、驚いた。奥が深いと思った。
- 伝統を大切にしたい、後世に残していきたいと思った。
- 来年は、ひな人形を飾ろうと思った。
- 雛掛軸を初めて見て驚いた。感動した。圧巻だった。
- ひなまつりは男の子の人形も飾るのには驚いた。
- 時代や地方によってひなまつりの方法が異なる点が興味深い。
- 古い時代に生活していた庶民の様子を思い浮かべた。

- 幼子の成長を祈るものだとは知らなかった。
- 昔の人形は意外と質素。
- ひなまつりの歴史が深い（長い）と思った。もっと歴史を知りたくなった。



ひなまつり

## 5、特に印象に残った作品は何ですか（自由記述）

1位 雛掛軸（56票）

2位 天神人形（14票 内6票は天神土人形）

3位 七段飾り（10票）

その他

享保雛（3票）、流し雛（3票）、飾り物（3票）、つるしびな（5票）、はまぐり（2票）、立ちびな（2票）、わけぎ（1票）、形代（1票）

## ○その他、意見

- お雛様とお内裏様の左右の違いの説明が欲しかった。パネルに書いてほしかった。
- パネルが小さく、解説量も少なかった。
- 雛掛軸の説明がよかった。
- 流れが見えにくく、ふくらませた話もなかった。
- 初めて7段飾りを見た！
- 全体的に、印象に残りにくかった。
- 第2ケースと外展示の雛壇の展示が、無機質に置かれているように感じた。
- 掛軸など大切に保存されていて嬉しい。
- 手作りのつるし雛をパネル等でもっとアピールしたらよかったのでは？

## 【全体の展示について】

### ① 展示会全体の雰囲気などはいかがでしたか。

- 見やすくよかった。
- また機会があれば足を運ぼうと思う。
- 歴史について知識が増えた。
- もう少し内容を深く掘り下げたほうがいい。

- おとなしめだった。不親切に感じた。
- 積極的に解説をしてほしい。
- 今回はあまり説明されず、ゆっくり見られたと思う。心遣いもすごくよかった。
- 落ち着いていて良かった。
- たばこ・化粧など、身近なものが展示されており楽しかった。
- 一般人にも入室しやすく、とても和やかに見学できてよかった。
- 本物の博物館のようだった。
- 暖房がきつかった。
- 手作り感がよかった。



実習展風景

② 今回の展示についてご意見・ご感想などあればお書き下さい。

- 各テーマの中心はなんなのかがあまり見えてこなかった。
- 5つの展示作品の方向性が全然違うのがおもしろかった。
- もう少し自分たちの作成したもの、アイデア等を取り入れてほしい。
- 説明内容が指示通り。膨らませた内容がない。
- もっと一つ一つに解説があればよかった。物の展示のみが多かった。
- 導入路・順路がバラバラ。指示するものが必要。
- 見る順序がわかりにくい個所があったので、矢印等で示せばもっとお客さんの回転もよくなると思った。しかし、自分の好きなものから見られるという点では良かった。
- 展示室に来るまでに迷ったので案内の看板くらい欲しい。
- もっと日本の歴史的なものを展示してもらいたい。
- ひな人形や化粧の展示など、女性の観点からのものが多いように思った。
- キャプションの字が小さく、観覧者の立場に立ったキャプション作りが必要。
- 毎年来ているが、今年はレベルが高くてびっくりした。
- 学生が作ったものとは思えないほど出来が良かった。
- もっと一般公開したらいいのと思う。
- 図録を来館者に配布できていたグループとそうでないグループがあることは気になった。予算の使い方が各班で異なるのかもしれないが、各班からレジュメ・プリントをいただけたら、後で読み返すことができるのに、と思った。

- ビデオや動画なども含めて展示してもらえるとわかりやすいと思う。

○その他（アンケートについて）

- 班ごとに展示内容が異なるので、1～3の共通項目をつくるより、それぞれもっと総合的な評価を書き込める自由欄を作ったほうがよい。
- 裏面の班のアンケートは無記入の数が多い。



平成22年度博物館実習展講評

# 関西大学博物館実習展（講評）

日時 2010年11月14日(月)～11月19日(金) 10時～16時

場所 関西大学博物館第2展示室（簡文館内）

## 栗おこし～なにわ菓子物語～

- 展示ラベル等の統一など、注意しており好感がもてる。実物の展示数も適量で見やすいように思う。解説の文体の選択などに考える必要がある部分あり。
- とても面白い内容でした。興米は神饌として供えるので、このような点も取り上げたら、中世も触れることができたのでは。
- 展示中パネルが落下したのは減点。目玉がなにかよくわからない。
- 独創的な展示で良かった。梅鉢の紋との関わりが説明できたら良い。
- 大阪といえば栗おこし、なので、その歴史が分かり、面白かったです。定番の包み紙のデザインも集めてみるといろいろ考えられるので、「梅」マークのこと、大きさのことなど説明を付したら……と思いました。ケース内の説明の文字は読みやすかったです。
- 全体的にまとまっているが、展示の流れに強弱をつけるとさらにひきまいる。
- 展示の下敷クロスを黒で統一したのはとてもよい。作品キャプション、すっきりしている。めずらしい資料にめぐまれた。内容に広がりがあればよい。
- 図録でも原物展示と複製展示の区別をするべき。子どもが楽しめるような工夫がされているのが良い。キャプションのデザイン性も良い。
- お菓子と思われる製品の中にいろんな背景がある。材料の違いと変遷、重宝される甘味、入手しやすい価格の食品、保存食としての存在などいろんな評価とその変遷を、どれだけ短時間で訴えかけられるであろうか？
- 図録は実質2/3の内容。時間経過を感じさせるノスタルジックなストーリーを入れることができなかったか。
- アンケートを取った300人のうち半分しか（栗おこしを）知らない（のは、驚きである）。展示作品は多様に声をかけているが、本学図書館蔵品（名所図：色のあるもの）をもっと活用すべき。何故栗おこしを選定したか？何故大阪なのか？（土産として？大阪外の評価）

## 化粧から化SHOWへ

- 展示コーナーごとの解説がないために展示内容の把握に時間がかかり問題。実物が展示意図についていけない感がある。
- 難しいテーマだと感じました。展示の仕方にとっても力を費やされたと思いますが、商品のディスプレイを見ているようです。
- 展示がごちゃごちゃしていてわかりにくい。品物よりもうしろのパネルの方に目が行く。
- 小物が多いので難しいと思うが、変遷をもう少し説明した方が良かった。パネルが繁雑で集中できない。

- 主題とするものが「モノ」ではないので展示構成が難しかったと思います。ポスターや写真の分析をもう少しするのもいいかなと思いました。(化粧品容器も面白いですが、メイクそのものとの関連が薄い部分も多いので……) 統計(データ)は分析が本当は難しいです。対象者など示した方がいいと思います。
- 美的なセンスに傾きすぎた展示。一般の人にわかる、もう少しオーソドックスな展示を。
- 壁展示がにぎやかで見づらい。展示意図が伝わってこない。「アンケート」資料をケース内に展示してはいけない。このタイトルはサブタイトルである。
- パネルだけで1ケース使うのはもったいない。本来展示は作品を見せて、それを解説するもの。展覧会の本来の意義を考えるべき。自分たちが使っている化粧品を包むことなくケースで展示すると、カビなどのもことになる。
- 化粧の変遷の中で、人々、特に女性の意識の変化を映し出す展示の流れは、もう少しこだわっても良かったのではないか? 説明を受けてよくわかるのではなく、強調するポイントが必要。何を訴えようとするのかがすぐわかるような工夫を。楽しさが表現されておりユニークな展示。
- 図録、ページ足らず。化SHOWの低年齢化? 具体的例示が欲しい。ごちゃごちゃ。
- 展示品の準備は大変。項目(メーカー・メイク・PR)にわけた説明が不足。昭和のアイテム多様→展示の意味。準備の努力は認めるが、コンセプトが弱い。図録との関連性。

### たばこ再考

- 展示コーナーごとの柱が不明確なため、全体の構成がよく理解しきれない。解説の字の大小、ラベルの構成にもやや難あり。
- 一つ一つの展示物は良いのですが、全体のテーマがはっきりしません。
- パネルも年代順に並んでいなかったり、わかりにくい意図の展示。説明もどこかの丸写し。キャプションの文字も小さい。
- タバコとポスターの展示は良かったが、前半との係わり方が良くわからない。
- マイナスイメージの「たばこ」ですが、いろんな面で「文化」的存在とも言えます。パッケージデザイン、ポスターデザインの点、文学者などとタバコ、小説の小道具、歴史を示す存在として……。限られたスペースと時間での展示なので、扱うものをしばって見せた方が面白いかもしれません。
- ポスターとパッケージだけで主題を展開するのは困難。
- 企画に問題がある。展示資料の存在感が薄い。メインの展示品がない。展示意図がよく理解出来ない。図録本文はよく勉強している。図録にコシマキは必要ない。
- 図録の帯はアイデアとしては面白いが、かたすぎてはズれる。あいさつ文のパネルが小さすぎる。壁面の距離も考えて字を大きく。JTからもらったポスターも作品とすれば良かったのでは。本そのものを展示する時は「出典」という用語は使わない。本の一部からパネルを作る場合、出典名の後にカッコで所蔵先を入れたほうがよい→原物と複製の区別をあきらかにするため。
- 賛否両論あれど、特にマイナスイメージの強いものであっても、歴史の中で大きな位置を占

めるものの記録を残そうとする姿勢は評価できる。特に文化の面での側面は大きい。文化的背景がありながら、何故、どのような過程で消滅してゆくのかの考察、そして、主流であった時代のマイナーな立場の発掘や差別行動についても調査してみる視点も欲しかった。ポスターが暗（アン）のイメージで、明（メイ）は？

- 図録、全体的にまとまっている。肖像権・著作権処理はどうするのか。出口・入口は動線障害をおこしているの、工夫する。
- たばこの文化＝個人の好み（国家統制）⇒JT、たばこと塩の博物館（郵送）、展示順序の問題〔時代順〕、もう少しビジュアル化。キセル⇒たばこ 帯はありだ。（だが、それ自体が仕掛け必要）

### 上方浮世絵 ～Osaka Prints～

- ラベル等の設計は成功している。巡回の方向とヨコ書きラベルの問題はあるものの、展示全体の統一感はある。実物の量も適当と思われる。
- 上方の絵本から浮世絵への流れがよくまとまっていておもしろかったです。
- 品物は抜群によいが、合羽摺りなどの説明文がむずかしい。わかりやすい表現を。
- 光を落として、落ち着いた展示になって良い。技法の説明がややわかり難い。図録の写真と説明を隣にした方がわかりやすい。
- 充実した内容だと思います。素人には読みにくい題名、人名が多いので、ローマ字でなく、かなでよみを書いてくれた方が、展示に集中できたかもしれません。刷り方の説明があってもよいかも。ポスター、ちょっと字が見にくい。
- すべての面で一定のレベルに達した展示。手法にも工夫があった。
- 展示、題簽、キャプション、大変よい。複製の展示はやむをえないが、出来は上々。テーマが大きいので、小スペースで行うのには無理がある。版画の版木、岩絵具の展示おもしろい。英文タイトル、必要ない。
- 図録でも原物展示、複製展示の区別をするべき。図録は、図版下に入れたデータも解説にも入れる。展示は本来原物を見せるものなので、複製はそれとわかるような扱いにしないと原物の良さが伝わらない。キャプションも良く（見やすくわかりやすい）、実習展とは思えない名作ぞろいなので、そこが残念です。
- 浮世絵の迫力、美しさがどうして出てくるのかの源泉をもう少し紹介してほしかった。版本をもう少しふくらませては。資料の羅列ではなく。非常にきれいな展示だが、個の作品の力によるところが大きい。
- 図録は片面刷りであり、ちょっとした手間をおしまない。美術的、オーソドックスで、展示がグループ化されていない。同時に展示、レイアウトに工夫がほしい。
- 浮世絵⇒上方に限定。絞り込むことは良いと思う。キャプションは上手い⇒展示工夫（版本見やすい）（照明の工夫）（〔特に〕江戸浮世絵との比較）。版 彫・刷（芸艸堂）の芸力は大きい。

### ひなまつり～変わらぬ願い～

- 展示物の掛軸のつり方等にやや難はあるものの、展示資料は良い物がある。テーマ解説にひと工夫すれば、全体により展示になる可能性がある。
- 雛掛軸とつるし飾りのインパクトのあるものが最初にあるので、後半が少しものたりなく感じてしまいました。
- 雛掛軸は迫力があるが、奥の七段飾りがかえて目立たない。パネルの文字は小さい。
- スペースが限られるので難しいと思うが、古代からの変遷に力を入れても良かった。
- 「ひな人形」に関する展示かと思いましたが、「ひなまつり」だったのでですね。まつりを見せることは大変ですが、人形など、ものが目立った感じがします。一方で、形はちがうのですが、全国でひなまつりがなされていたことは興味深いので、図の解説などでもっと伝えたいのに、と思いました。
- 個々の資料はおもしろいが、後半の展示が平凡になったのは惜しい。
- めずらしい雛掛軸を展示できたことはラッキーである。解説が不足している。展示に流れがあり、よい。ポスターにメインのもの＝「雛掛軸」を使えばよかった。
- 立体の作品を展示しているので見ごたえがある。キャプションの余白、字の大きさ、字間、行間などに工夫がなく読み難い。軸の展示方法に工夫が必要。上部を巻いているので作品がライトの加減で暗くみえる。
- ひなまつりの歴史的な背景や文化の深みをどれだけ表現できていたのか？私には面白かったが、歴史に強い人にはどう映ったのだろうか？人形の顔、姿の変遷、家庭内での位置や、地方や歴史の中での違いはどうか？ひなまつりの時の人々のにぎわいや楽しみ方、特に女性の様子を知る資料をもう少し多めにすると良かった。表面的な展示をこえる。
- 図録、解説はしっかりしている。もう少し、ひな壇が象徴的にできなかったか。順路、矢印、をなくす工夫が必要。
- 掛軸（押し絵）（古今雛）－京都から日本中に物流、良縁。 風俗文化⇒雛 女性多し。立体が多いので展示が大変。段飾り＝江戸

### 総 評

- 近視なので小さい字のキャプションがとても見にくかったです。展示テーマの中での展示意図を示す、道案内の役割をするパネルをうまく利用すべきと思いました。（化粧班、たばこ班など）
- 解説は利用者を見てから、応対がいない展示に。全体にストーリー中心、モノのないフラットな展示である。誘導、めりはり。キャプション、図録ともに余白がない。
- 図書館蔵品の徹底的な活用。現物の面白さ。コンセプトは上方浮世絵がよかった。展示の手間は化粧班、全体のバランスは上方浮世絵。図録の説明は上方浮世絵、工夫はたばこ班。図録の問題は展示班との連携。センテンスの長さ。



# 関西大学博物館自己点検・評価報告書

2008（平成20）年度～2009（平成21）年度

関西大学博物館自己点検・評価委員会

## はじめに

本書は、「関西大学博物館自己点検・評価報告書」の2008（平成20）年度から2009（平成21）年度の報告である。最初に、この報告書を取り纏められた自己点検・評価委員会の米田文孝委員長及び長谷洋一副委員長、委員諸氏にその労を謝したい。

これまでの自己点検・評価報告では、関西大学博物館の設立にいたる経緯、収蔵資料の特徴を示し、関西大学博物館の理念と目的を明らかにすることを報告の主眼とし、さらに今後の課題の幾つかを明示していただいている。

これらの報告を受けて、今回の第7回報告では、大学全体での外部評価や統一的な自己点検・評価方法に対応した評価を行って頂けたと考える。

自己点検・評価報告書の要諦は、情報公開の下で実態の公表が行われ、各構成員・機構の自己点検を可能にすることであり、提示された点検・評価と提言をすべての構成員が再検討し、合意を形成できる場合には、その自己点検・評価に即した改善や改革への方策がとられることになることである。今回の報告書が、その出発点となることを、心から期待するところである。

平成23年3月31日  
関西大学博物館長  
高橋隆博

平成23年3月1日

関西大学博物館  
館長 高橋 隆博 殿

関西大学博物館  
自己点検・評価委員会  
委員長 米田 文孝

## 関西大学自己点検・評価に基づく調査報告書（平成20～21年度）の提出について

当委員会は、関西大学博物館自己点検・評価委員会規定（平成8年1月26日制定）の定めるところにより自己点検・評価を行いましたので、ここにその結果をご報告申し上げます。

当委員会は平成20年4月に開催された自己点検・評価委員会で発足しました。関西大学博物館自己点検・評価委員会規定（平成8年1月26日制定）第3条、第4条、第5条の定めるところにより、米田文孝・長谷洋一・熊博毅・山口卓也・石立弥生子委員の留任が承認されました。併せて、委員の互選により米田文孝委員が委員長に選出され、副委員長は規約に則して新委員の中から委員長が長谷洋一委員を指名し承認されました。

当委員会は、関西大学博物館自己点検・評価委員会規定8条の定めるところにより隔年に自己点検・評価を行い、その結果を報告書に取り纏めて館長に提出することになっておりますので、規定7条に掲げる事項について自己点検・評価を行いました。ここに、その結果をご報告申し上げます。

平成20年度および平成21年度の関西大学博物館自己点検・評価委員会の構成及び任期は、以下の通りです。

### 関西大学博物館自己点検・評価委員会委員（平成20～21年度）

委員長	米田 文孝（規程第3条第1項第1号に規定する委員）
副委員長	長谷 洋一（規程第3条第1項第1号に規定する委員）
委員	熊 博毅（規程第3条第1項第2号に規定する委員）
	山口 卓也（規程第3条第1項第3号に規定する委員）
	石立弥生子（規程第3条第1項第3号に規定する委員）

## 点検・評価と将来の改善・改革に向けた方策

関西大学博物館は社会教育法・博物館法・関西大学例規に定められた理念のもと、大学当局の理解・支援を受けながら、限られた物的・人的資源を創意工夫・活用し、その設立理念と目的を達成するべく努力している。これらのなかには、すでに高い社会的評価を得たり、教育効果を上げたりしている成果もある。同時に、大学博物館像が急激に変化している現状を鑑み、大学博物館が取り組むべき新たな事業の遂行に必要な知識・技術の習得と、担当職員の意識改革に取り組みつづけることは高く評価できるが、今後とも継続的に時代の要請に即応した今日的な研修の機会・内容を充実させることが必要不可欠である。さらに、中・長期的な課題として、収蔵庫や展示室が抱える諸問題を抜本的に解決する新博物館の建設や、「生涯教育社会」の展開にともなう多様化した本館の業務に対応できる専門性の高い人材の養成も必要不可欠である。

これらを視野に、早急に改善が望まれる問題点としては、(ア)収蔵庫確保に関する問題、(イ)収蔵史資料の評価委員会設立に関する問題、(ウ)（仮称）第3展示室の設置、(エ)展示ケースの免震・制震化に関する問題、(オ)全学的な史資料の保全に関する問題、(カ)中・長期的な博物館担当の人材育成に関する問題などがある。

### (ア) 収蔵庫確保に関する問題

関西大学博物館の旧収蔵庫は旧図書館本館や書庫用の施設を応急的に転用していたが、2005年度に文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター整備事業）として、「なにわ・大阪文化遺産学術研究センター」が採択されたことから、鉄筋コンクリート造4階の増築棟（延床面積1、587.51㎡）が建築され、この建物の3階部分に特別収蔵庫、一般収蔵庫が設置された。その結果、最優先の懸案事項であった本学博物館の収蔵庫問題の改善が図られた。ただし、収蔵庫の床面積が大幅に減少した結果、史資料を天六学舎に分散して保管せざるを得ないという憂慮すべき現状にある。喫緊の課題として、天六学舎に保管されている史資料の安全な保管収蔵について、新博物館の建設も視野に抜本的な解決が必要である。この問題は博物館が保管する教育・研究資源を半永久的に一括保全するとともに、後述する個人コレクションの寄託・寄贈を促進する観点などからも、早急に検討すべき課題である。

### (イ) 収蔵史資料の評価委員会設立に関する問題

関西大学博物館における資料の蒐集活動のうち、資料の寄贈については館長職が個別的に運営委員会委員に諮問し、案件ごとに運営委員会が承認してきた経緯がある。一方では、近年、博物館・美術館などにおける指定管理者制度の導入や館自体の存続問題なども関係し、個人の収集家を中心にコレクションの寄託・寄贈先を博物館・美術館から大学博物館に変更する事例が増加しつつある。このような社会的な状況変化に対応するため、寄託・寄贈などの案件に関して、本学博物館の設立趣旨に合致した史資料の受入可否を迅速・適正に審議・答申する（仮称）評価委員会の設置が必要であろう。あわせて、博物館による購入物件も含めて、寄託・寄贈品の史的・学術的評価を行う（仮称）評価専門委員会の設置も必要である。この（仮称）評価専門委員会におい

ては、対象案件と利害関係を有さない外部の第三者（有識者）を構成員に委嘱し、評価の内容に客観性を担保することが必要である。また、（仮称）評価専門委員会は具体的な案件ごとに、最適な外部の有識者を加えた構成員で編成・運営される柔軟な形態であることが望ましい。

寄贈を広く推進する方策として、寄贈者の名前を展示解説に表示することにとどまらず、特に大きなコレクションの寄贈を受けた場合には、寄贈者の意向を確認した上で展示室の入口部分などに明示して目に見える形での顕彰を考慮することや、具体的な税制上の優遇措置にかんする支援体制などについて、関連部局内で検討を行っておくことなども必要であろう。将来的には、従来の自己点検評価とは別の視点から本館の運営の現実を測る手段として、各年度の事業や活動、中・長期目標の期間内における事業や活動の実績について検証し適正な評価を行う、外部有識者による（仮称）外部評価委員会の設置・導入についても検討が必要であろう。

#### （ウ）（仮称）第3展示室の設置について

文学部の開講科目で、全学的に開放された学芸員資格取得に必須である博物館実習を受講する学生・院生は、近年80名前後で推移している。この授業では、実習企画展の開催や東京実習、数度に及ぶ学外実習が課せられるなど、受講生の負担も大きいものの、学生・院生からみて充実度の高い科目の一つである。学外的な視点からも、博物館学課程を設置する全国の大学中、1961（昭和36）年度に課程が設置され、50年の歴史を有するという伝統もさながら、専門分野を異にする総数19名の専任教員と現職を中心とした学芸員が分担・運営するカリキュラムの充実度は、常に高く評価されている。しかし、近畿地方を中心に400名余の博物館や美術館、教育委員会などの学芸員（高度専門職業人）を輩出してきた本学博物館学課程の特徴の一つであり、その実力を養成してきた本格的な実習企画展は、従来から関西大学博物館の全面的な協力を得て、その第2展示室を一時借用して実施しているという実態がある。その結果、例年11月の実習企画展の開催時期に合わせて、本館の専任学芸員が展示ケース内の収蔵品をすべて収蔵庫に片付け、約1月間の実習企画展の準備・展示期間の終了後、再び展示品をケース内に戻すという所作をくり返している。この本館第2展示室を利用した実習企画展の開催により、その期間中には博物館本来の展示室として必要不可欠の機能が半減することにとどまらず、何よりもかけがえのない展示品や高価な展示ケースに損傷を与えるという危険性が常に存在するという問題も生じている。また、業務とはいえ限られた員数で運営されている学芸員の負担も看過できない。この問題を解消するためには、実習企画展が開催できる施設を備えた施設の確保が早急に必要である。

博物館学課程の充実が優秀な学生・院生の確保につながるという観点から、施設面の充実に力を注いでいる有力大学が近年急速に増えており、常磐大学のように博物館学課程のみならず学生の知の創造・活用の拠点として、戦略的に「博物館学博物館」を設置する大学もある。さらに、文部科学省が主導して平成24（2012）年度に導入される学芸員資格の高度化を企図した新カリキュラムに対応できる教育内容の充実の観点からも、展示作業の可能な博物館実習室の設置が必要である。本学博物館学課程においても、学外インターン・シップの導入をはじめとした担当教員のさらなる創意工夫はもちろんのこと、全学的に利用可能な共同利用施設としての機能も備えた、今日的に必要な設備をもつ（仮称）第3展示室の設置を通じて、現在の優位性を発展的に維持しつつ、卒業生を中心とした人的ネットワークの構築とその支援を受けながら、社会に信頼される

学芸員資格教育の拡充をおこなう必要がある。

#### (エ) 展示ケースの免震・制震化に関する問題

1995（平成7）年1月の阪神大震災では、関西大学博物館でも展示ケース内の展示物が転落し、破損・損傷するなどの被害を受けた。それから10余年、各地の博物館や美術館では大規模な災害発生に対する危機管理意識が向上し、財政難の中においても積極的な対策がとられてきた。例えば、東海地震の影響が心配される岐阜県多治見市に2002（平成14）年10月に開設された複合施設セラミックパークMINO内にある岐阜県現代陶芸美術館では、並進振子免震システムを採用して展示品を保護している。また、東京国立西洋美術館ではロダンの「地獄の門」をはじめとした前庭にある彫刻6点の台座に免震装置の取り付け工事を施した。江戸東京博物館や九州国立博物館、国立新美術館などでは、建物自体に制震装置を導入している。2011（平成23）年3月の東日本大震災は、全体的被害は不明だが、さらに大規模な対応を迫ることとなった。

本館は建築後50余年が経過している旧図書館本館を転用しており、閲覧室として設計された天井高のある構造や、著名建築家によるデザインを優先した形態などからも、耐震性は低いと想定できる。特に、展示室には旧図書館の閲覧室（第1展示室）と開架閲覧室（第2展示室）を利用しており、本来的に学術標本資料を展示する目的には不都合な構造である。これを解決するため、建物自体の基礎部分を掘削して積層ゴム方式をはじめとした免震構法を施工したり、建物自体の耐震性を高める制振材・壁で補強したりするには、費用面をはじめ検討すべき課題が山積しており、にわかには実施しがたいのも事実であるが、河内国府遺跡出土品をはじめとした重要文化財16点、重要美術品12点を保管・展示しているという厳然たる事実も看過しがたい。そのため、現在は重要文化財から順次、免震ケースに収納あるいは展示ケースを免震床上に配置するという対策を講じる必要がある。2004（平成16）年の中越地震の教訓から、免震装置も直下型の縦揺れにはあまり効果が期待できないという事実も視野にしつつ、重要文化財の保管を負託されている数少ない大学博物館として、展示ケース更新の機会を積極的に活用して、偏心ローラー支承方式やスライド支承方式などによる免震ケースや部分的な免震床の設置を検討することが必要である。懸案であった収蔵庫問題の段階的な解決をはじめ、効果的な保管条件の改善が図られていることは評価できるが、今後もさらに収蔵品に対して良好な環境を整えることができるよう、果敢に取り組むことが望まれる。

#### (オ) 全学的な史資料の保全に関する問題

関西大学は、大学のシンボルともいえる伝統と風格のある歴史的建造物（旧図書館本館）を活用し、いち早く大学博物館を設置したことや、全国の大学博物館相当施設のなかでも有数の収蔵資料をもつことなど、学内外から高く評価されている。これはその実現に努力した大学当局や関係教職員の理解と努力の結果であるが、その実態として本山コレクションを中心とした「考古学博物館」であるという特徴がある。このような館固有の事情は必ずしも本学に特徴的なものではなく、各大学の博物館や資料館は、その歴史的な経緯や大学の性格が色濃く反映されている。伝統ある各大学では、全学的な総合博物館の実現にむけて将来構想委員会などが設立・検討されてきたが、主として財政的な問題からその歩みは遅々としていた。

1995（平成7）年に文部省学術審議会が「ユニバーシティー・ミュージアムの設置について－

学術標本の収集、保存・活用体制の在り方について」の中間報告、翌年1月に最終答申を提出した。同年4月に東京大学総合研究資料館が同研究博物館に転換、1997（平成9）年には京都大学文学部博物館が自然史系も含めた総合博物館として再出発したように、有力大学は同答申の実現に迅速な努力を重ねている。このような現状を勘案した場合、本学博物館はその設立時期では先行したものの、その内容を実体化させる各学部や研究所、教職員などが組織・個人単位で蓄積した「知の文化遺産＝人類の財産」を必ずしも有効活用しているとはいえない。大学博物館の第一義的な目的・使命は、博物館法第2条第1項の定義から、その大学で行われてきた調査研究の過程で収集された標本や史資料などを系統的に保管して活用をはかり、その研究成果を広く展示公開すること、および大学の教育と研究に資することが原点である。

本学における研究活動の特色のひとつである実践的な野外活動で獲得された諸資料の保全と有効活用をはじめ、関西大学博物館を名実ともに先進的かつ総合的な大学博物館とするため、その第一歩として急速に散逸しつつある学術史資料の保全に関する全学的な検討委員会を設立し、大学博物館の社会的使命の実現に着手することが重要である。これらを通じて、学術遺産の保全・水準の維持・向上はもとより、生涯学習の実施・支援など、社会に開かれた情報発信基地として、本館の価値をさらに高めることができよう。これには、本館を拠点に学芸員とともに調査研究を推進し、その成果を社会に発信する研究員組織の整備も必要である。

#### （カ） 中・長期的な人材育成に関する問題

関西大学博物館の運営は館長以下、限られた教職員が業務を精力的に行っているが、時代の要請として大学博物館に期待される役割が多様化しつつある。その結果、業務内容が博物館法第3条の全項目に及んで拡大・複雑化するとともに増大し、関係者は日々の業務に追われ疲弊している環境が常態化している。この現況は、近年までややもすると敷居の高かった大学博物館が関係者による不断の努力から、学生・院生や研究者のみならず、老若男女を問わず一般市民が貴重な資料を直接目にして、「知」へ容易にアクセスできる窓口・玄関として認知され、「知」の泉が好奇心をかき立てていることは評価できる。しかし、現在の綱渡り的な運営体制を視野に入れた場合、要員の増員を検討すべき段階に至っていると判断できる。特に、関西大学博物館を特徴づける本山コレクションを管理する中心的な学芸員についても、博物館法第4条第3・4項を担う次代の学芸員を計画的に養成・配置する必要がある。

現在、全国に開校する約1200の4年制・短期大学中、博物館を設置する大学は約180校・280館園であるが、関西大学においては本博物館が社会に対して恒常的に開かれた唯一の窓口であるといっても過言ではない。1998（平成10）年当時、学内に3館を設置していた明治大学では、大学基準協会による相互評価の認定において博物館が大学の教育研究の活性化に重要な役割を果たしているとして高く評価されたように、博物館教育事業が第三者評価や大学の特色のアピールに直結する。新大学評価システムの導入ができる現在、生涯学習社会における使命を明らかに開かれた運営、社会から託された知的資源の調査研究と次代への継承、知的刺激の共有と知価の創造などを達成するためにも、前掲した諸法令に定められた博物館における教育研究のさらなる活性化・個性化を推進するためにも、関西大学博物館は全学共通利用機関として、新たな外部評価に耐えうる運営を担保する教育研究基盤の整備拡充が必要である。

## 関西大学博物館自己点検・評価 資料目次

1	施設の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 簡文館の概要…………… 65</li> <li>(2) 博物館部分の床面積…………… 65</li> <li>(3) 高松塚古墳壁画再現展示室の概要…………… 65</li> <li>(4) 施設の平面図（後掲）…………… 87</li> </ul>	65
2	組 織	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 博物館運営委員会…………… 65</li> <li>(2) 博物館自己点検・評価委員会…………… 66</li> <li>(3) 博物館…………… 66</li> </ul>	65
3	事 業	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 資料等の収集・整理及び保管…………… 67 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 収蔵資料数</li> <li>イ 指定文化財数</li> <li>ウ 収蔵資料の充実</li> </ul> </li> <li>(2) 資料等の展示及び公開…………… 69 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 展示資料数</li> <li>イ 開館日数・入館者数</li> </ul> </li> <li>(3) 調査研究活動並びにその発表と出版…………… 69 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 定期刊行物</li> <li>イ 刊行物</li> </ul> </li> <li>(4) 講座、講習会、研究会等及び展示会の開催…………… 71 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 「ミュージアム講座」の開催</li> <li>イ 国際フォーラム</li> <li>ウ 「なんでも相談会」の開催</li> <li>エ 企画展の開催</li> <li>オ 講演会の開催</li> </ul> </li> <li>(5) その他の事業…………… 73 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 資料の利用状況</li> <li>イ 博物館実習の受け入れ</li> <li>ウ 地域連携事業</li> </ul> </li> </ul>	67
4	規 程	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 関西大学博物館規程…………… 79</li> <li>(2) 関西大学博物館規程細則…………… 82</li> <li>(3) 関西大学博物館自己点検・評価委員会規程…………… 84</li> <li>(4) 高松塚古墳壁画再現展示室運営内規…………… 86</li> </ul>	79



## 1 施設の概要

### (1) 簡文館の概要

- ア 構造 鉄骨・鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付4階建  
イ 建築面積 2,190.12㎡  
ウ 延面積 4,058.73㎡  
エ 登録有形文化財（建造物）

関西大学簡文館が「登録有形文化財（建造物）」の1つとして選定され、このたび、平成19年7月31日付けをもって、登録番号第27-0426号として文化財登録原簿に登録され、8月13日付け官報号外第181号で告示されました。

### (2) 博物館部分の床面積

#### 関西大学博物館施設の概要

名 称	各 床 面 積 (㎡)	合計面積 (㎡)
展 示 室	第1展示室 262, 第2展示室 350	612
収 蔵 庫	特別収蔵庫A 101.00 特収蔵庫B 59.00 一般収蔵庫59.00 前室その他215.35	434.35
実 習 室	86	86
図 書 室	43	43
館 長 室	29	29
事 務 室	事務室85、パントリー 8	93
そ の 他	閲覧コーナー24、受付43、ホール9、WWC（3階）18、 バルコニー（2階）7、その他417.93	518.93
総 面 積		1816.28

### (3) 高松塚古墳壁画再現展示室の概要

- ア 構造 鉄骨造ガラス板ぶき平屋建  
イ 建築面積 33.64㎡  
ウ 延面積 33.64㎡

### (4) 施設の平面図（後掲）

## 2 組 織

### (1) 博物館運営委員会

博物館運営委員（平成20年度～平成21年度）

	選出母体（所属）	氏 名	任 期
博物館長	文学部教授	高橋 隆博	役職在任中
	法学部教授	市川 訓敏	20.4.1～22.3.31
	文学部教授	中谷 伸生	20.4.1～22.3.31

学 部 選 出	経済学部教授	加勢 田博	20.4.1～21.3.31
	商学部教授	永沼 博道	20.4.1～22.3.31
	社会学部准教授	村田麻里子	20.4.1～22.3.31
	政策創造学部教授	白石 真澄	20.4.1～21.3.31
	政策創造学部教授	原田 輝彦	21.4.1～22.3.31
	外国語学部教授	石原 敏子	21.4.1～22.3.31
	総合情報学部教授	深田 陽司	20.4.1～22.3.31
	システム理工学部専任講師	緒方 正則	20.4.1～22.3.31
	環境都市工学部教授	藤田 勝也	20.4.1～22.3.31
	化学生命工学部教授	小松 伸也	20.4.1～21.3.31
	化学生命工学部助教	矢島 辰雄	21.4.1～22.3.31
学 識 経 験 者	文学部教授	大谷 渡	20.4.1～22.3.31
	文学部教授	藪田 貫	20.4.1～22.3.31
	文学部教授	米田 文孝	20.4.1～21.3.31
	文学部教授	長谷 洋一	20.4.1～22.3.31
	学術情報事務局長	市原 憲厚	役職在任中
	学術センター次長		
	博物館事務長事務取扱	熊 博毅	役職在任中

## (2) 博物館自己点検・評価委員会

博物館自己点検・評価委員（平成20年度～平成21年度）

委員 長	文学部教授	米田 文孝	20.4.1～22.3.31
副委員 長	文学部教授	長谷 洋一	20.4.1～22.3.31
	学術センター次長		
	博物館事務長事務取扱	熊 博毅	役職在任中
	博物館事務室 学芸員	山口 卓也	役職在任中
	博物館事務室 学芸員	石立弥生子	役職在任中

## (3) 博物館

館 員	○印は学芸員	
	平成20年度	平成21年度
館 長	高橋 隆博 ○	高橋 隆博 ○
事 務 長	熊 博毅 ○	熊 博毅 ○
	山口 卓也 ○	山口 卓也 ○
	石立弥生子 ○	石立弥生子 ○
	鶴谷かおり	鶴谷かおり
	常行 貞臣 ○	常行 貞臣 ○

速水 裕子  
定時職員 8名

速水 裕子  
9名

### 3 事業

#### (1) 資料の収集・整理及び保管

##### ア 収蔵資料数

2010. 3 .31現在

種別	形態										
	実物	標本	模写	模型	図書	図表	写真	映像	音響	その他	合計
絵画	1		15								16
彫刻			3	1							4
工芸品	320			2				21			343
書籍・典籍 ・文書	2,140										2,140
考古資料	1,535			50		1	47				1,633
民俗文化財	212			7							219
産業史資料	27								1,488		1,515
自然科学資料		350									350
図書	辞書等				736						6,460
	図録				2,530						
	紀要				3,194						
合計	4,235	350	18	60	6,460	1	47	21	1,488	0	12,680

(注) 1 一括資料を一点として計上したものを含む。

2 未整理資料は除く。

##### イ 指定文化財数

(ア) 重要文化財 16点 (附6点を含む)

石枕 1 伝奈良県天理市柳本

玦状耳飾 6 大阪府藤井寺市国府遺跡 丸玉 1 同 左

鉢形縄文土器 1 同 上 高坏型土器 1 同 左

籠型土器 1 同 上 銅鏃 5 同 左

(附) 縄文土器残欠 6 同 上

(イ) 重要美術品 12点

銅鐸 4点 大阪府四条畷市他 鶏形埴輪 1点 愛媛県大洲市南久米

石人頭部 1点 福岡県八女市吉田 石ゆき上半部 1点 同 上

銅製壺鍔 1点 出土地不詳 平形銅剣 1点 愛媛県新居浜市

鋳銭資料 一括 山口県豊浦郡長府 鹿角製刀装具 2点 福岡県糸島郡雷山古墳

ウ 収蔵資料の充実

平成20年度 新規収蔵資料

資料名	種別	数量
職業婦人繪巻	1	絵画・実物
国債・株券等	15	産業・実物
単弁蓮華文軒丸瓦	1	考古・実物
古清水色絵菊慈童香炉	1	工芸・実物
古清水焼色絵椿文銚子	1	工芸・実物
古曾部焼紅葉小皿	19	工芸・実物
古曾部焼 伊羅保焼写茶碗	1	工芸・実物
古曾部焼 三島写飯茶碗	5	工芸・実物
鹿背山焼染付竹林七賢急須	1	工芸・実物
鹿背山焼染付扇面ちらし蓋物	1	工芸・実物
附：鹿背山焼印判染付鉢	1	工芸・実物
赤膚焼白釉俵形茶碗	1	工芸・実物
赤膚焼白釉カンナベ（銚子）一対	2	工芸・実物

平成21年度 新規収蔵資料

資料名	種別	数量
手焙 上田宗品作	1	工芸・実物
麻浸し（舌出し）浅田九兵衛	1	工芸・実物
染付水注 南紀男山仙馬	1	工芸・実物
南京赤絵香炉 鹿背山	1	工芸・実物
鉄絵焼餅皿 10枚	10	工芸・実物
湊焼茶碗 吉右衛門作	1	工芸・実物
楽焼灰器 久楽作	1	工芸・実物
銅版染付火入 川名山製 2点	2	工芸・実物
染付盃 和歌山	1	工芸・実物
カメラ類一式	9	産業・実物
脱活乾漆造仏像構造模型	1	工芸・模型
本山彦一揮毫「養真」	1	文書・実物
皇陵巡拝地図	1	文書・実物
手焙 上田宗品作	1	工芸・実物
麻浸し（舌出し）浅田九兵衛	1	工芸・実物
染付水注 南紀男山仙馬	1	工芸・実物
南京赤絵香炉 鹿背山	1	工芸・実物
鉄絵焼餅皿 10枚	10	工芸・実物
湊焼茶碗 吉右衛門作	1	工芸・実物
楽焼灰器 久楽作	1	工芸・実物
銅版染付火入 川名山製 2点	2	工芸・実物

資料名	種別	数量
染付盃 和歌山	1	工芸・実物
カメラ類一式	9	産業・実物
脱活乾漆造仏像構造模型	1	工芸・模型

(2) 資料等の展示及び公開

ア 展示資料数（常設展示のみ）

第1展示室（縄文・弥生・古墳時代資料） 572点（一括資料は1点として計上）

イ 開館日数・入館者数

月	平成19（2007）		平成20（2008）		平成21（2009）	
	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数
4	19	1,680	27	2,523	26	1,901
5	24	2,701	26	1,934	17	690
6	20	394	21	645	23	788
7	23	857	23	639	22	456
8	6	833	4	1,394	6	1,475
9	6	81	8	201	5	84
10	23	430	24	414	21	564
11	24	1,883	18	1,135	20	1,022
12	16	171	16	158	20	796
1	18	85	16	171	16	167
2	14	203	15	42	13	119
3	18	1,020	21	280	22	404
計	211	10,338	219	9,536	211	8,466

(3) 調査研究活動ならびにその発表と出版

ア 定期刊行物

書名	号数	執筆者数	ページ数	発行部数	発行年月日
阡陵	第57号	6	16	1,600	2008年9月30日
	第58号	7	16	1,600	2009年3月31日
	第59号	6	16	1,600	2009年9月30日
	第60号	7	16	1,600	2010年3月31日
関西大学 博物館紀要	第15号	8	214	800	2009年3月31日
	第16号	6	250	800	2010年3月31日

イ 刊行物（2009年度）

書名・紙名	号 数	発行日	編集・発行機関等
企画展図録 浪速の絵師 菅楯彦の画業『職業婦人繪巻』			博物館
関西大学博物館蔵 本山彦一氏蒐集資料目録	—	22. 3 .31	
年次報告書 なにわ・大阪文化遺産学研究センター2009	—	22. 3 .31	
なにわ・大阪文化遺産学叢書 神社を中心とする村落生活調査報告書（三） 大阪府—大阪府 堺市・岸和田市・泉北郡・ 泉南郡—／兵庫県	第 13 卷	22. 1 .31	なにわ・大阪 文化遺産学研究 センター
なにわ・大阪文化遺産学叢書 大阪天満宮 <small>夏大祭</small> 天神祭と流鏝馬式史料 慶応元年～明治二十年	第 14 卷	22. 3 .25	
なにわ・大阪文化遺産学叢書 大坂代官 竹垣直道日記（四）	第 15 卷	22. 3 .10	
なにわ・大阪文化遺産学叢書 大阪の神社関係記事 明治三九—四一年 —『大阪朝日新聞』『大阪毎日新聞』	第 16 卷	21.11.30	
なにわ・大阪文化遺産学叢書 前近代のにぎわいと空間演出 —日本におけるキワ空間と人のふるまいを 手がかりに—	第 17 卷	22. 3 .15	
なにわ・大阪文化遺産学叢書 杭全神社宝物撰	第 18 卷	22. 3 .20	
なにわ・大阪文化遺産学叢書 新発見 豊臣期大坂図屏風	第 19 卷	22. 3 .31	
NOCHS Occasional paper 地域連携企画第 4 弾 平野をさぐる	No. 9	21. 6 .30	
NOCHS Occasional Paper 文化遺産学交流会	No10	22. 1 ..	
国際シンポジウム報告書 新発見「豊臣期大坂図屏風」	—	21.10.31	
News Letter 難波潟	No12～13	年 2 回	
NOCHS MAIL	第56～66号	年11回	

書名・紙名	号数	発行日	編集・発行機関等
関西大学所蔵鬼洞文庫一枚摺データベース	—	21.11.1 運用開始	

(4) 講演会、講習会、研究会及び展示会の開催

ア 「関西大学ミュージアム講座」の開催

開催日	開催時間	テーマ	講師	参加者数	会場	主催
20.7.12 (土)	13:30 ～ 15:00	なにわの文化遺産(三)	近世後期 大坂の出版 文化	37	簡文館増築棟 1F 文化遺産 実習・展示室	関西大学博物館 なにわ大阪文化 遺産学研究センター 関西大学地域 連携センター
20.7.19 (土)			伝統野菜の 今日的意義 —知っていますか、なにわの伝統 野菜—	31		
20.7.26 (土)			浪速の町絵 師 —菅楯彦の 画業とその 社会的背景—	37		
21.7.11 (土)	10:30 ～ 12:00	なにわの文化遺産(四)	近代大阪の 建築	19	関西大学 なにわ・大阪 文化遺産学研 究センター1 階 文化遺産 実習・展示室	関西大学博物館 関西大学社 会連携部地域 連携センター
21.7.18 (土)			北村兼子と その時代 —世界にはば たいた女性ジ ャーナリスト—	19		
21.7.25 (土)			近代大阪の 文学	22		

イ 国際フォーラム

〔博物館事務室・なにわ・大阪文化遺産学研究センター〕（オープン・リサーチ・センター整備事業）

「豊臣期大坂図屏風の「謎」をとく」

開催日	場所	プログラム	参加者数
2009.11.8	大阪産業創造館	報告：跡部 信（大阪城天守閣主任学芸員） Isabel Tanaka-Van Daalen（財日蘭学会） Barbara Kaiser（オーストリア・エッゲンベルク城博物館主任学芸員） コーディネーター： 高橋隆博NOCHSセンター長（博物館長・文学部教授）	168

ウ 「なんでも相談会」の開催

平成20年度

期 間：8月1日（金）～2日（土） 10時～16時

スタッフ：関西大学博物館学課程専任教員・非常勤講師・関西大学博物館学芸員  
関西大学大学院生 学部学生

参加者数：511人

開催イベント：キャンパス昆虫探検隊・紙芝居・作ってみよう！葉っぱのバツタ・石とにらめっこ・さわってみよう・博物館・銅鐸スケッチ・相談会

平成21年度

期 間：8月4日（火）～5日（水） 10時～16時

スタッフ：関西大学博物館学課程専任教員・非常勤講師・関西大学博物館学芸員  
関西大学大学院生 学部学生

参加者数：829人

開催イベント：キャンパス昆虫探検隊・作ってみよう！木工アニマル・作って飛ばそう！紙飛行機・作ってみよう！葉っぱのカツムリ・作ってみよう葉っぱのバツタ・さわってみよう博物館・銅鐸スケッチ・親子で作る縄文ポシェット・相談会

エ 企画展の開催

平成20年度

企画展「天目 宙への誘い—木村盛康陶芸展—」

期 間：4月1日から5月18日

入館者数：4,113名



平成21年度

企画展「浪速の絵師 菅楯彦の画業」

期 間：4月1日から5月17日

入館者数：2,591名

オ 講演会の開催

平成20年度

開催日	演 題	講 師	参加者数
20. 5 .10	天目の魅力	陶芸師 木村 盛康	30
20. 7 . 5	高松塚古墳壁画を探る	文学部教授 米田 文孝 奈良文化女子短期大学教授 来村 多加史	368

平成21年度

開催日	演 題	講 師	参加者数
21. 4 .25	浪速御民—菅楯彦とその画業 ～『職業婦人繪巻』～を通して	芦屋市立美術博物館 学芸課長 明尾 圭造	38

(5) その他の事業

ア 資料の利用状況

(ア) 平成20・21年度資料貸出状況

平成20年度

貸出日	貸出先機関名	貸出物品名	点数	種類	使用目的・展示会名	
～ 21. 3 .31	大阪狭山市郷土資料館（継続）	須恵器他	109	資料	展示	常設展示
～ 21. 3 .31	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館（継続）	川原寺裏山遺跡出土 方形三尊仏	3	資料	展示	常設展示
20. 4 . 1 ～ 20. 6 .30	滋賀県立安土城考古博物館	牽牛子塚古墳出土夾 紵棺断片 興福寺旧東金堂本尊 佛頭複製	5 1	資料 資料・ 画像	展示 掲載	春季特別展『仏法の 初め、茲（これ）より 作（おこ）れり— 古墳から古代寺院へ—』

貸出日	貸出先機関名	貸出物品名	点数	種類	使用目的・展示会名	
20.6.6 ～ 20.7.14	関西大学図書館	内藤コレクション 旅行カバン 他	10	資料	展示	特別企画展『内藤湖南—近代日本の知の巨匠—』
20.6.12 ～ 20.12.26	門真市立歴史資料館	羽間コレクション 帳場格子・銭箱他	6	資料	展示	特別展「商う人々—門真商売事始—」
20.6.19 ～ 20.12.3	諏訪市博物館	本山資料830番 (曾根遺跡資料)	26	資料	展示	第53回企画展「諏訪湖底曾根遺跡発見100周年記念展」
20.6.27 ～ 20.6.30	関西大学先端科学技術推進機構	発火ピストン	1	資料	講演資料	第1回研究会 下間頼一先生講演
20.7.7	(株)ジャパン通信情報センター	高松塚壁画復元写真	1	写真	掲載	「文化財発掘出土情報」増刊号文化庁主催「発掘された日本列島2008展」表紙
20.9.1	曾根遺跡報告書刊行会	爪形文土器、「諏訪湖中」とある後期土器、中期の土器片錘、尖頭器・石鏃他、石核及び剥片、獣骨	1式	写真	掲載	『諏訪湖低曾根遺跡の研究』（仮称）
20.9.8 ～ 20.12.15	関西大学図書館	多賀城碑拓本	1	資料	展示	秋季特別展
20.9.30	関西大学東西学術研究所	内藤コレクション 竹垞硯 同 扇子	1 1	写真	撮影掲載	東西研資料集刊26『内藤湖南と清人書画』
20.11.5	青森県立郷土館	片口付土器 土偶	1 2	写真	掲載	企画展「蓑虫山人と青森」
20.12.10 ～ 21.3.10	(株)東京美術	佐紀陵山古墳出土蓋	1	写真	掲載	「はにわのヒミツ」(仮題)
20.12.25 ～ 21.3.31	大阪府立近つ飛鳥博物館	日葉酢媛陵古墳 蓋 形埴輪（復元）	1	資料写真	展示掲載	冬季特別展「百舌鳥・古市大古墳群展～巨大古墳の時代～」
合計利用件数		14件	合計利用資料数		171件	

平成21年度

貸出日	貸出先機関名	貸出物品名	点数	種類	使用目的・展示会名	
21.4.14	奈良県立橿原考古学研究所	白陶	1	拓本	掲載	『中国拓本資料目録—末永雅雄先生旧蔵資料第2集—』
21.5.9	関西大学図書館	多賀城碑文拓影	1	拓本	掲載	『関西大学図書館フォーラム』第14号
21.6.22	荒川区立生涯学習センター	高松塚古墳壁画再現展示室写真	1式	写真	転載	講座「天皇陵と古墳のナゾ」ポスター
21.10.7	(株)エヌ・アンド・エス企画	古墳時代挂甲復元模型	1	写真	掲載	『教科書に出てくる宝物 実物大図鑑』(ポプラ社)
21.11.30	(有)真陽社	鹿角刀装具 埴輪	2 1	写真	転載 掲載	『小林行雄考古学選集』第2巻 古墳文化の研究
21.11.19	(株)六一書房	泉大塚山古墳出土神獸鏡	3	写真	転載 掲載	『古墳時代倣製鏡の研究』小林三郎著
21.10.25 ～ 11.8	(財)元興寺文化財研究所	椒浜古墳出土挂甲復元模造品(具足一式含) 同 リバーサルフィルム 円照寺墓山古墳出土挂甲復元模造品(具足一式含) 同 リバーサルフィルム	1式 1 1式 1	資料 写真	展示 掲載	平成21年度秋季特別展「もの・ワザ・情報—古の匠に挑む—」—古墳時代金工品の復元—
22.1.22 ～ 3.26	(財)向日市埋蔵文化財センター	上代挂甲組成標本	1式	資料 借用	展示	平成21年度速報展示「新発見の考古資料展」
22.1.26 ～ 2.4	(財)向日市埋蔵文化財センター	椒浜古墳出土襦袢式挂甲カラーネガ 円照寺墓山古墳出土胴丸式挂甲カラーネガ	1 1	写真	掲載	平成21年度速報展示「新発見の考古資料展」
22.3.29	兵庫県立考古博物館	百舌鳥大塚山古墳出土鏡	1	写真	掲載	兵庫県文化財調査報告第383冊『史跡茶すり山古墳』
22.3.31	大阪市立大学	伝渋谷出土石枕	1	写真	掲載	『玉手山1号墳の研究』〈大阪市立大学考古学研究所報告〉第4冊
合計利用件数		11件	合計利用資料数		19件	

## (イ) 平成20・21年度資料利用状況

## 平成20年度

利用日	利用者	利用物品名	利用内容	利用目的
20.4.23	文化庁技官	銅鐸 2点	実見・実測 写真撮影	調査研究
20.5.22	(財)ひたちなか市文化・ スポーツ振興公社技 師	石棒	実見 写真撮影	調査研究
20.6.28	ハノイ大学教員	玉石製品とその製作 関連遺物	実見 写真撮影	調査研究
20.8.2	向井千秋記念子ども 科学館職員	「高松塚古墳壁画天文 図の年代」(汪勃、『博 物館紀要第8号』、 2002)	複写	調査研究
20.8.4	東京大学大学院生	高句麗時代の瓦と埴	実見 写真撮影	調査研究
20.11.5	大阪大学経済学部生	博物館内における車 椅子生活者の視界バ リアフリー調査	調査 写真撮影	調査研究
21.2.10	NHK	高松塚古墳壁画復元 画	撮影	『ETV特集』シリー ズ『日本と朝鮮半島 ～古代から近世まで ～』
21.3.19	日本経済新聞社大阪 本社企画開発部	高松塚古墳壁画再現 展示室	写真掲載	ホームページ「日経 関西コンシェルジュ」 関西地区博物館紹介 コーナー
21.3.12	国立民族学博物館	高松塚古墳壁画復元 図	利用	石創画作成
21.3.28	宮内庁書陵部研究員	本山資料 石棒 3点	実見 写真撮影	調査研究

## 平成21年度

利用日	利用者	利用物品名	利用内容	利用目的
21.5.28	立命館大学考古学研 究会	鹿角刀装具 3点	実測 写真撮影	論文作成
21.7.14	関西大学COE特別 研究員	朝鮮 墓誌類 6点 中国 金石文拓本 碑石 3点 同 銘版類 版刻 1点	閲覧	資料調査

利用日	利用者	利用物品名	利用内容	利用目的
21.7.15	奈良県立万葉文化館	末永雅雄先生復元 椒浜出土挂甲、装具 一式	実見・実測 写真撮影	調査研究
21.8.21	韓国嶺南大学准教授 他6名	高句麗時代の瓦及び せん	実測 写真撮影	調査研究
21.10.13	立命館大学 文学部 学生	合子 2点 玉手山7号墳 石製 合子 1点	実見・実測 写真撮影	卒業論文
22.3.2	大阪府立弥生文化博 物館	亀ヶ岡遺跡出土土製 仮面 1点 青森県出土土製仮面 1点	実見・実測 写真撮影	特別展開催に伴う調 査

#### イ 博物館実習の受け入れ

##### (ア) 博物館実習履修生の受入数

年 度	学 部	4年次	3年次	計	大学院	科目等 履修生	学芸員 コース	合計 (名)
20	文	11	38	49	5	2	0	72
	その他	11	5	16				
	合計	22	43	65				
21	文	8	48	56	7	3	0	77
	その他	7	4	11				
	合計	15	52	67				

##### (イ) 博物館実習展の開催

平成20年度

実習展「北摂の文化遺産」

期間：11月17日（月）～22日（土）

入館者数：762名

平成21年度

実習展

期間：11月16日（月）～20日（土）

入館者数：478人

#### ウ 地域連携事業

平成19年度から北大阪にある48館・園の美術館・博物館・動物園などで北大阪ミュージアム・ネットワークを結成し、さまざまな事業を行っている。

文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業：

平成20年度北大阪ミュージアム・ネットワーク実行委員会（代表：関西大学博物館）

開催日	行事名	主担館	参加者数
20.10.25 ～ 20.11.29	吹田とビール — 北大阪の特産物—炭— 北摂の文化遺産	主担：関西大学博物館 協力：吹田市立博物館、池田市立歴史民俗資料館、箕面市立郷土資料館、大阪府営箕面公園昆虫館、茨木市立文化財資料館	1375名

刊行物 書名・紙名	発行日 (発行回数)	仕様	総頁数	発行 部数	編集・発行機関 取扱部署
北大阪ミュージアム・ネットワーク冊子「北摂の文化遺産」	20.11.17	A4判	16	2,000	関西大学博物館
北大阪ミュージアム・ネットワーク冊子「北大阪の特産物 炭」1-4	20.11.15	A4判	48	500	関西大学博物館
北大阪ミュージアム・ネットワーク2008 冊子	21.3	A4判	8	25,000	編集：吹田市立博物館 発行：関西大学博物館
北大阪ミュージアム・ネットワーク 地域産業と文化遺産 事業実施報告書	21.3	A4判	80	900	関西大学博物館

文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業：

平成21年度北大阪ミュージアム・ネットワーク実行委員会（代表：関西大学博物館）

開催日	行事名	主担館	参加者数
21.9.19 ～ 21.11.28	北摂戦国探検隊（講演会3回、シンポジウム1回、歴史ウォーク3回、展示解説ツアー1回）	主担：吹田市立博物館 協力：池田市立歴史民俗資料館、高槻市立しろあと歴史館 参加：池田郷土史学会、吹田郷土史研究会、NPO法人高槻市文化財スタッフの会、池田市観光協会ボランティアガイド、伊丹市文化財ボランティアの会	829名

#### 関連刊行物

書名・紙名	発行日 (発行回数)	仕 様	総頁数	発行部数	編集・発行機関 取 扱 部 署
北大阪ミュージアム・ネットワーク冊子「北撰 戦国探検隊」	22. 3	A4判	8	25,000	吹田市立博物館
北大阪ミュージアム・ネットワーク北撰 戦国探検隊 事業実施報告書	22. 3	A4判	40	900	吹田市立博物館

## 4 規 程

### 関西大学博物館規程

平成6年1月28日制定

(設置)

第1条 関西大学学則第65条の2の規定に基づき、関西大学に関西大学博物館（以下「博物館」という。）を置く。

(目的)

第2条 博物館は、考古学、歴史学、民俗学、美学・美術史、産業技術・技術史、自然科学等の資料並びに図書等（以下「資料等」という。）の収集、整理、保管、展示及び調査研究活動を行い、大学における教育及び研究の発展のために寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は、前条に規定する目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 資料等の収集、整理及び保管に関すること。
- (2) 資料等の展示及び公開に関すること。
- (3) 調査研究活動に関すること。
- (4) 調査研究の成果発表及び出版に関すること。
- (5) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に関すること。
- (6) 講演会、講習会、研究会及び展示会の開催に関すること。
- (7) その他必要な事業に関すること。

(研究センター)

第3条の2 博物館に前条第5号の規定に基づく研究センターを設置し、センター長を置く。

2 前項の研究センターの運営に関する規定は別に定める。

(職員)

第4条 博物館に次の職員を置く。

- (1) 館長
- (2) 学芸員
- (3) 事務職員

- 2 学芸員は、専任職員をもって充てる。
- 3 博物館に若干名の非常勤研究員を置くことができる。

(館長)

第5条 館長は、博物館を代表し、博物館の業務を統括する。

- 2 館長は、学長の推薦により理事会が任命する。
- 3 館長の任期は3年とし、再任を妨げない。
- 4 館長が欠けたときは、補充しなければならない。この場合において、その任期は、前任者の残任期間とする。

(学芸員)

第6条 学芸員は、博物館資料の収集、整理、保管、展示及び調査研究活動その他これらに関連する業務を行う。

(非常勤研究員)

第6条の2 非常勤研究員は、博物館における調査及び研究を行う。

- 2 非常勤研究員は、博物館の研究活動に関連する研究実績を有する研究者のうちから博物館運営委員会の議を経て、館長が委嘱する。
- 3 非常勤研究員の任期は1年とする。ただし、館長が認める場合は、再任することができる。
- 4 その他非常勤研究員に関する事項については、別に定める。

(運営委員会)

第7条 博物館の管理運営に必要な事項を審議するため、博物館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(委員会の構成)

第8条 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 館長
- (2) 各学部から選出された専任教育職員 各1名
- (3) 学術情報事務局長及び博物館事務長
- 2 委員会は、前項に規定する委員のほか、学識経験者若干名を加えることができる。学識経験者の委嘱は、学長が行う。
- 3 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(委員の任期)

第9条 委員（館長を除く。）の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 前条第1項第1号及び第3号に規定する委員の任期は、その在任中とする。
- 3 前条第1項第2号に規定する委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第10条 委員会に委員長を置き、館長が当たる。

- 2 委員会は、必要に応じて委員長が招集し、議長となる。
- 3 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、出席委員の過半数の同意をもって決す



る。

(委員会の審議事項)

第11条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 資料等の収集、整理及び保管に関する事項
- (2) 博物館の管理運営に関する事項
- (3) 調査研究活動に関する事項
- (4) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に関する事項
- (5) 博物館実習に関する事項
- (6) 博物館の予算に関する事項
- (7) その他必要な事業に関する事項

(自己点検・評価委員会)

第12条 博物館に関西大学博物館自己点検・評価委員会（以下「自己点検・評価委員会」という。）を置く。

2 自己点検・評価委員会は、博物館に関する事業の管理及び運営について自己点検・評価を行う。

3 自己点検・評価委員会に関する規程は、別に定める。

(事務)

第13条 博物館に関する事務は、博物館事務室が行う。

(細則)

第14条 この規程に定めるもののほか、博物館の管理運営上必要な事項は、関西大学博物館規程細則において規定する。

附 則

1 この規程は、平成6年4月1日から施行する。

2 関西大学考古学等資料室規程（昭和50年10月1日制定）は、廃止する。

附 則

この規程（改正）は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程（改正）は、平成16年4月1日から施行する。

2 この規程（改正）施行後最初に第5条第2項の規定により選出される博物館長の任期は、第5条第3項の規定にかかわらず平成18年9月30日までとする。

附 則

この規程（改正）は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成22年5月1日から施行する。

## 関西大学博物館規程細則

平成6年1月28日制定

（趣旨）

第1条 この細則は、関西大学博物館規程第14条の規定に基づき、同規程の施行について必要な事項を定めるものとする。

（開館日）

第2条 関西大学博物館（以下「博物館」という。）の開館日は、次のとおりとする。

- (1) 4月1日から7月28日までの月曜日から金曜日まで
- (2) 9月21日から12月20日までの月曜日から金曜日まで
- (3) 1月8日から3月20日までの月曜日から金曜日まで

（開館時間）

第3条 博物館の開館時間は、午前10時から午後4時までとする。

（休館日）

第4条 博物館の休館日は、第2条に規定する開館日を除く日のほか、次のとおりとする。

- (1) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (2) 本大学記念日
- (3) その他本大学の定める休業日

2 館長は、必要があると認めた場合には、前項に規定する休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

（入館手続）

第5条 博物館に入館する者は、所定の手続をしなければならない。

2 館長は、博物館における教育及び研究活動に支障があると認めた場合には、入館を許可しないことがある。

（入館料）

第6条 博物館の入館料は、原則として無料とする。

（入館者の義務）

第7条 入館者は、施設、資料等を棄損し、又は滅失したときは、直ちに館長に届け出てその指示に従わなければならない。

2 前項に規定する損害に対しては、入館者は損害賠償の義務を負わなければならない。た

だし、事情によりこれを免除又は軽減することができる。

(資料等の利用)

第8条 博物館内において資料等の利用を希望する者は、利用許可申請書（様式第1号）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

- 2 館長は、前項の利用許可申請書の提出があったときは、審査のうえ利用許可書（様式第2号）を交付する。ただし、重要文化財及びこれに準ずる資料については、博物館運営委員会（以下「委員会」という。）を開催し、その意見を聴いて決定しなければならない。
- 3 館長は、管理上支障がある場合には、前項に規定する許可を取り消すことができる。
- 4 第2項の規定による許可を受けた者は、資料等を棄損した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の貸出)

第9条 資料等の貸出を受けようとする者は、貸出許可申請書（様式第3号）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

- 2 館長は、前項に規定する貸出許可申請書の提出があったときは、審査のうえ貸出許可書（様式第4号）を交付する。ただし、重要文化財及びこれに準ずる資料については、委員会を開催し、その意見を聴いて決定しなければならない。
- 3 館長は、管理上支障がある場合には、前項に規定する許可を取り消すことができる。
- 4 第2項の規定による許可を受けた者は、貸出期間中の保管及び貸出に伴うすべての経費を負担する。また、別に定める所定の使用料を博物館に納入しなければならない。
- 5 貸出期間中に貸出品が棄損し、又は滅失した場合は、貸出を受けた者が損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の貸出期間)

第10条 資料等の貸出期間は、次のとおりとする。

- (1) 重要文化財指定資料 1カ月以内
- (2) 重要美術品指定資料 2カ月以内
- (3) その他の資料 2カ月以内

(撮影等の許可)

第11条 資料等の撮影、模写、模造等をしようとする者は、撮影等許可申請書（様式第5号）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

- 2 館長は、前項の撮影等許可申請書の提出があったときは、審査のうえ撮影等許可書（様式第6号）を交付する。ただし、重要文化財及びこれに準ずる資料については、委員会を開催し、その意見を聴いて決定しなければならない。
- 3 館長は、管理上支障がある場合には、前項に規定する許可を取り消すことができる。
- 4 第2項の規定による許可を受けた者は、撮影等で、資料等を棄損した場合、損害賠償の義務を負わなければならない。また、別に定める所定の使用料を博物館に納入しなければならない。

(資料等の借入)

第12条 館長は、資料等を借入れたときには、所有者に借用書（様式第7号）を交付する。

(受贈)

第13条 資料等の受贈については、別に定める。

(寄託)

第14条 資料等を寄託しようとする者は、その品目、点数、期間等を、寄託申込書（様式第8号）に記入のうえ、館長に提出するものとする。

2 館長は、前項の規定による寄託の申出があった場合は、委員会を開催し、受入れを決定したものについては意見を付し理事会に進達しなければならない。

3 館長は、資料等の寄託を受けたときは、寄託者に対して当該資料等の目録を交付するものとする。

4 寄託を受けた資料等については、万全の注意をもって保管しなければならない。

(高松塚古墳壁画再現展示室)

第15条 高松塚古墳壁画再現展示室の管理運営上必要な事項については、別に定める。

附 則

この細則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この細則（改正）は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この細則（改正）は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この細則（改正）は、平成20年3月11日から施行する。

様式（省略）

## 関西大学博物館自己点検・評価委員会規程

制定 平成8年1月26日

(設 置)

第1条 関西大学博物館（以下「博物館」という。）に、関西大学博物館規程第12条の規定に基づき、関西大学博物館自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目 的)

第2条 委員会は、博物館の目的及びその使命を達成するため、博物館における教育研究の支援活動及び管理運営について自己点検・評価を行う。

(構 成)

第3条 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 博物館運営委員のうちから博物館長が指名する者 若干名
- (2) 博物館事務長
- (3) 学芸員 若干名

- 2 委員会は、特に必要がある場合、2名以内に限り博物館運営委員会（以下「運営委員会」という。）の議を経て、大学内外の学識経験者に委員を委嘱することができる。

（任期）

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長及び副委員長）

第5条 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、第3条第1項第1号の委員の中から互選により選出する。
- 3 副委員長は、第3条第1項第1号の委員の中から委員長が指名する。

（運営）

第6条 委員会は、委員長が招集し、議長となる。

- 2 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。
- 3 委員会は、全委員の過半数の出席をもって成立し、委員会の議事は出席委員の過半数の同意をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員会は、必要に応じて委員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。

（職掌事項）

第7条 委員会は、自己点検・評価に関し、次の事項を審議決定し、実施する。

- (1) 自己点検・評価方針の立案
- (2) 自己点検・評価の実施及び報告書の作成
- (3) その他自己点検・評価及び第三者評価に必要な事項

（結果の報告）

第8条 委員会は、隔年に自己点検・評価結果の報告書を作成し、館長に提出する。

- 2 前項の報告書は、館長がこれに意見を付し、運営委員会の議を経て公表する。

（事務）

第9条 委員会の事務は、博物館事務室が行う。

（補則）

第10条 この規程に定めるもののほか、博物館の自己点検・評価に関し必要な事項は、委員会の議を経て運営委員会で決定する。

附則

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

附則

この規程（改正）は、平成15年4月1日から施行する。

## 高松塚古墳壁画再現展示室運営内規

制定 平成20年3月12日

(趣 旨)

第1条 この内規は、博物館規程細則第15条の規定に基づき、高松塚古墳壁画再現展示室（以下「壁画再現展示室」という。）の運営について、必要な事項を定めるものとする。

(開室日)

第2条 壁画再現展示室の開室日は、次のとおりとする。

- (1) 4月1日から7月28日までの月曜日から土曜日まで
- (2) 9月21日から12月20日までの月曜日から土曜日まで
- (3) 1月8日から3月20日までの月曜日から土曜日まで

(開室時間)

第3条 壁画再現展示室の開室時間は、午前9時から午後5時までとする。

(休室日)

第4条 壁画再現展示室の休室日は、第2条に規定する開室日を除く日のほか、次のとおりとする。

- (1) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (2) 本大学記念日
- (3) その他本大学の定める休業日

2 博物館長（以下「館長」という。）は、必要があると認めた場合には、前項に規定する休室日を変更し、又は臨時に休室日を定めることができる。

(見学科)

第5条 壁画再現展示室の見学科は、原則として無料とする。

(見学者の義務)

第6条 見学者は、施設、資料等を棄損し、又は滅失したときは、直ちに館長に届け出てその指示に従わなければならない。

2 前項に規定する損害に対しては、見学者は損害賠償の義務を負わなければならない。ただし、事情によりこれを免除又は軽減できる。

3 館長は、壁画再現展示室における教育及び研究活動に支障があると認めた場合には、見学を許可しないことがある。

(事 務)

第7条 壁画再現展示室の事務は博物館事務室が行う。

附 則

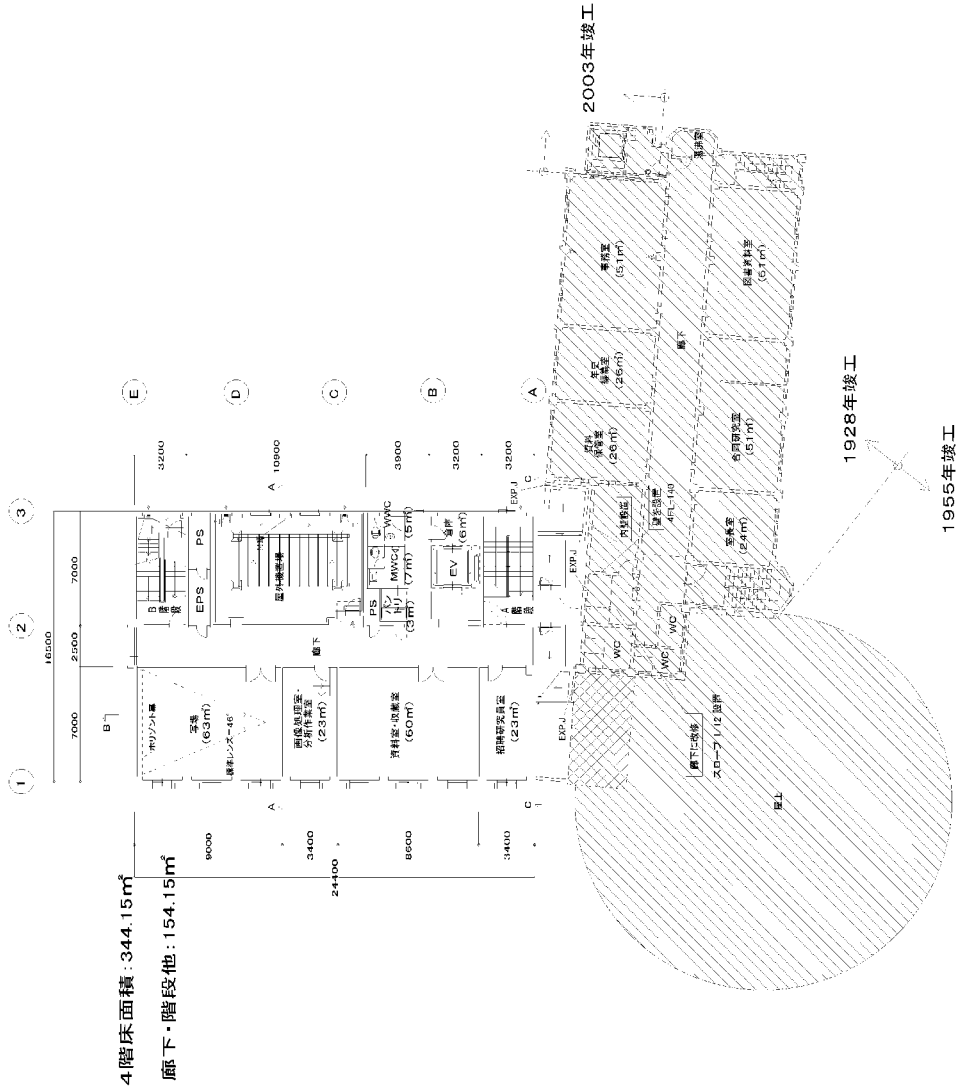
この内規は、平成20年3月11日から施行する。











簡文館 4階平面図